



Kaspersky Security Center 14 インストールガイド

2023/1/27

株式会社カスペルスキー
セールスエンジニアリング本部

Ver. 1.0

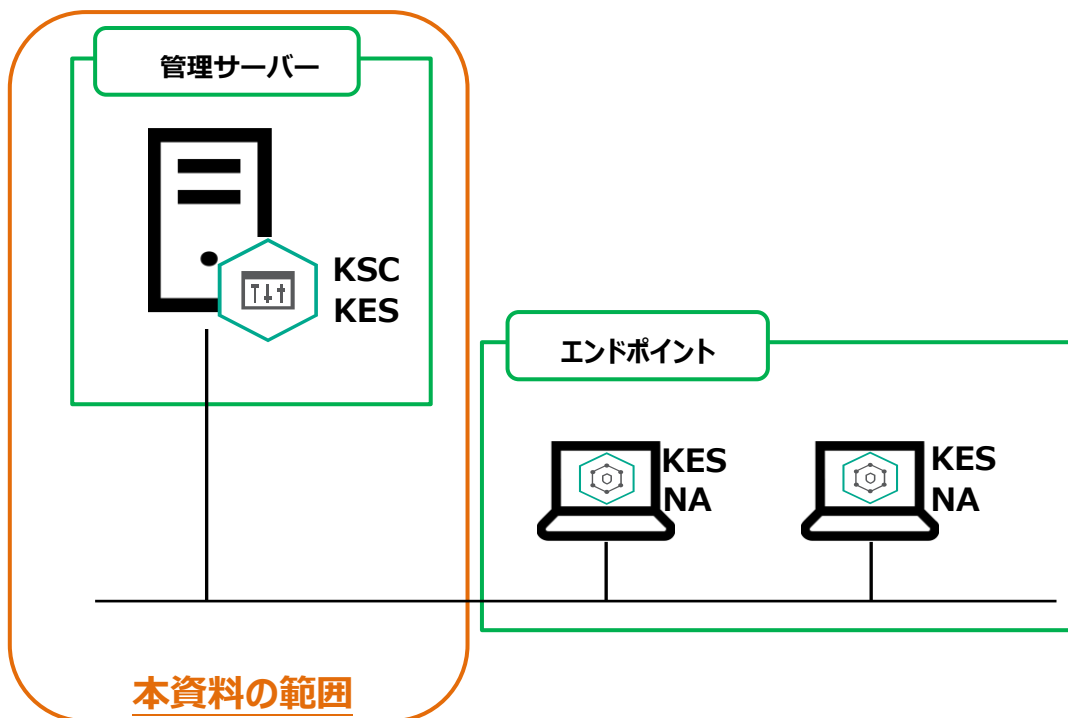
目次

1. はじめに	3
1.1. 本資料の目的	3
1.2. 導入から運用開始までの流れ	4
1.3. 製品概要	5
1.4. システム要件について	6
1.5. インストール時の注意点	7
1.6. KSC 構築の流れ	8
2. SQL Server のインストール（参考）	9
3. KSC のインストール	15
3.1. KSC のインストール	15
3.2. KSC の初期設定	31
Appendix	46
1. KSC に対しインストールパッケージの登録	46
2. KSC に対し KES のインストール	55

1. はじめに

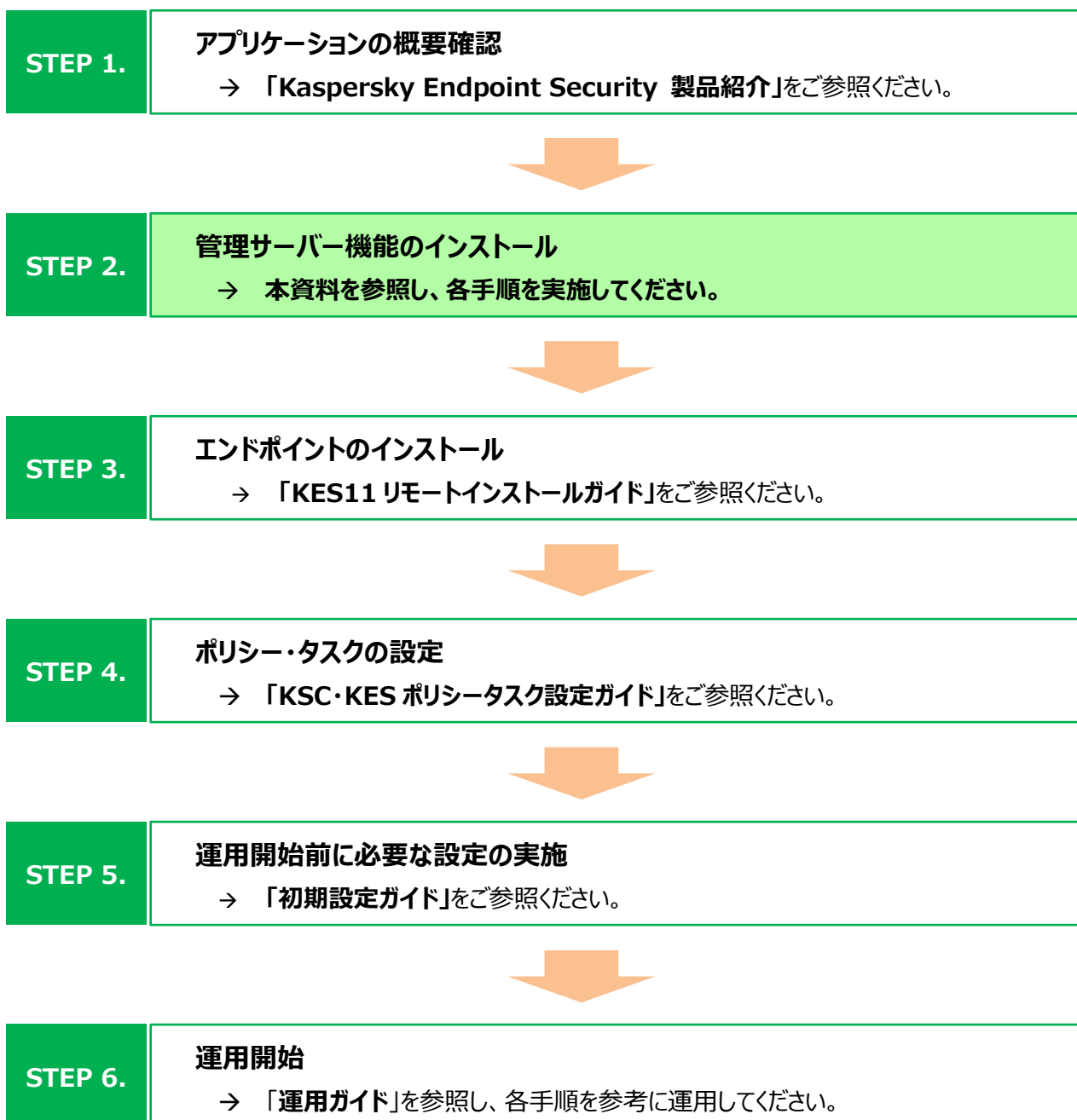
1.1. 本資料の目的

本資料では、Kaspersky Security Center 14（以降 KSC）の構築手順をご説明します。
導入後の構成イメージは以下の通りです。



1.2. 導入から運用開始までの流れ

カスペルスキー製品の導入から運用開始までの流れ、および本資料の位置づけについてご説明します。



上述の各資料は、以下サイトから閲覧、ダウンロードすることができます。

- 法人のお客様向けダウンロード資料 (<https://kasperskylabs.jp/biz/>)

それぞれの主な役割は以下の通りです。

■ Kaspersky Security Center (KSC)

カスペルスキー製品を統合管理するツールです。製品のリモートインストールやポリシー・タスクの管理を行います。また、レポート機能によりマルウェアの検知状況、定義ファイルの更新状況、管理下にあるコンピューターの脆弱性状況などのセキュリティステータスをグラフィカルなレポートで確認することができます。

(本資料で使用するのはバージョン 14 です)

■ Kaspersky Endpoint Security (KES)

クライアントに導入するセキュリティソフトウェアです。マルウェアのスキャンや駆除を行います。ライセンスは次の 2 種類があり、それぞれ利用できる機能が異なります。

(本資料で使用するのはバージョン 11 です)

Select (サーバー・クライアント)

クライアント、モバイル、サーバー OS 向けアンチウイルス、およびコントロール機能

Advanced (サーバー・クライアント)

Select + Kaspersky Vulnerability and Patch Management、暗号化

詳細はホームページをご確認ください

<https://www.kaspersky.co.jp/small-to-medium-business-security>

■ ネットワークエージェント (NA)

KES と KSC の間の通信を行うプログラムです。ポリシーとタスクなどの管理情報やプログラムの更新情報などをやりとりするほか、KSC 経由でクライアントに KES をリモートインストールする際にも使用されます。

KSC が適切に動作するためには、インストール先のコンピューターが下記 URL に記載されているシステム要件を満たしている必要があります。

<https://support.kaspersky.com/KSC/14/ja-JP/96255.htm>

✓ **別途データベースをインストールする必要がある。**

KSC のデータ格納先として別途データベースを用意いただく必要があります。

利用可能なデータベースは以下のシステム要件をご参照ください。

<https://support.kaspersky.com/KSC/14/ja-JP/96255.htm>

本資料では、データベースとして「Microsoft SQL Server 2017 Express」を使用します。

※ 「Microsoft SQL Server 2019」を使用する場合、累積パッチ CU12 を適用するか、追加で以下に記載されている設定が必要となりますのでご注意ください。

<https://support.kaspersky.com/KSC/14/ja-JP/92235.htm>

✓ **KSC にエンドポイントセキュリティ機能は無いため別途インストールが必要。**

KSC にはセキュリティ機能がありません。管理サーバー OS を保護するためには、別途セキュリティ製品をインストールする必要があります。

本資料では Appendix に管理サーバーに対して KES11 をインストールする手順を記載しています。

✓ **100GB のハードディスク空き容量を用意。**

ハードディスクの空き容量として 100GB を用意してください。100GB 未満の場合でもインストールは可能ですが、インストールパッケージの整理やデータベースに保存するイベントの種類や期間をデフォルト設定より少なくするなどし、データベースへの保存データ量を制限して運用してください。

✓ **Windows ワークステーションにおける同時接続セッション数は 20。**

KSC をワークステーション OS (Windows 10 等) にインストールすることは可能です。しかし、ワークステーション OS は **同時接続セッション数が 20 に制限**されているため、管理デバイス数の少ない小規模環境に限定することをお勧めします。

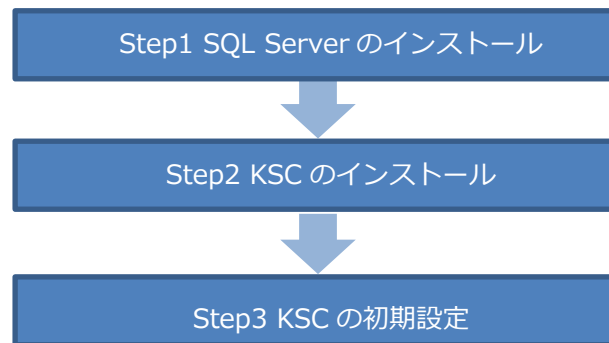
✓ **ドメイン環境でインストールする場合、Domain Admins 権限でログイン。**

Active Directory の管理下にある環境に KSC をインストールする場合、Domain Admins 権限のユーザーでインストール作業を実施してください。

また、Domain Controller (DC) に対して KSC をインストールしないようにしてください。トラフィックやパフォーマンスに問題が発生し、正常に動作しない可能性がございます。

ワークグループ環境のサーバー OS に KSC を導入後 DC へ昇格すると、アカウント情報が変わり KSC が正常に起動しないため実施しないでください。

KSC は以下の流れでインストールを行います。



次ページからインストール手順をご説明します。

2. SQL Server のインストール (参考)

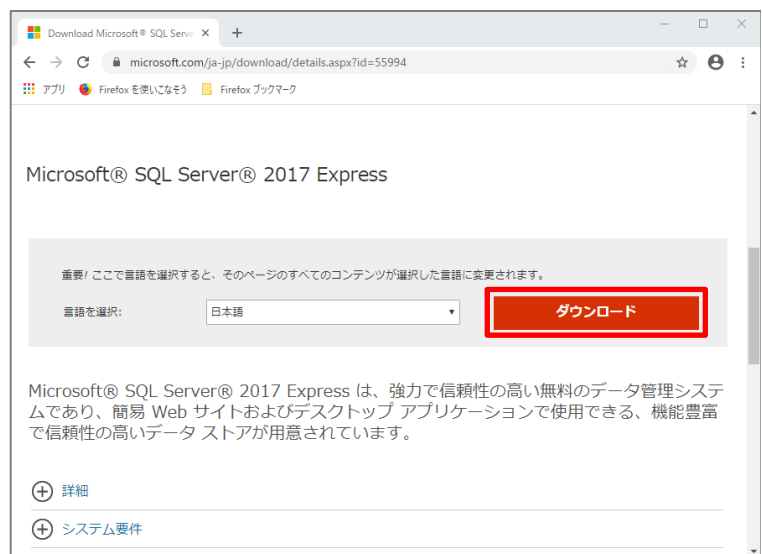
本章では、WORKGROUP 環境の Windows サーバー OS に対し、新規に「**Microsoft SQL Server 2017 Express**」をインストールする手順についてご説明します。

あくまで参考手順であり、製品仕様や手順の詳細、カスタマイズなどにつきましては、マイクロソフト社までお問い合わせください。

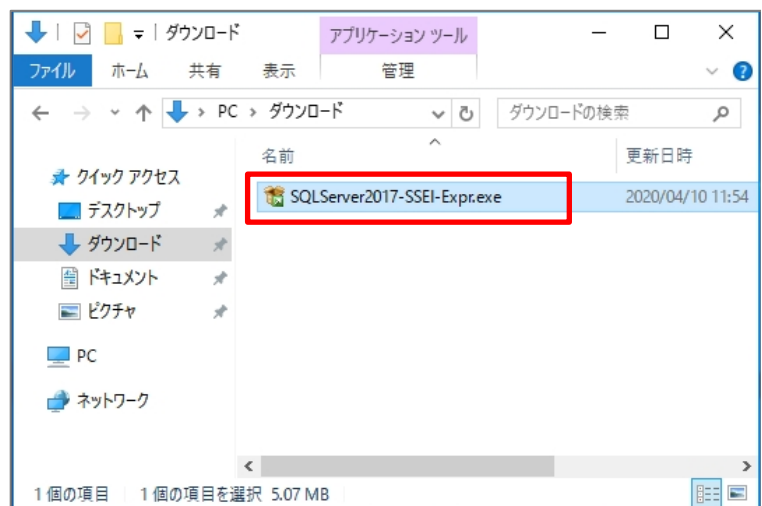
既に何らかのデータベースをご利用されている場合、新規にインスタンスを作成し、KSC インストール時に指定することも可能です。

- (1) 以下 URL にアクセスし、「SQL Server 2017 Express」のインストーラーをダウンロードします。

<https://www.microsoft.com/ja-jp/download/details.aspx?id=55994>



- (2) ダウンロードした SQL のインストーラーを実行します。



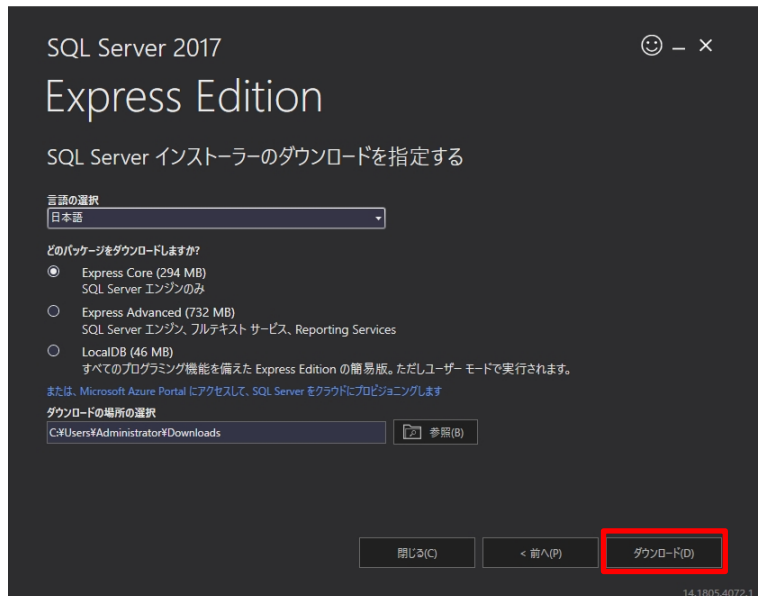
(3) インストールの種類を選択する画面が表示されます。

ここでは、インストーラー本体をダウンロードして実行するため「メディアのダウンロード」を選択します。

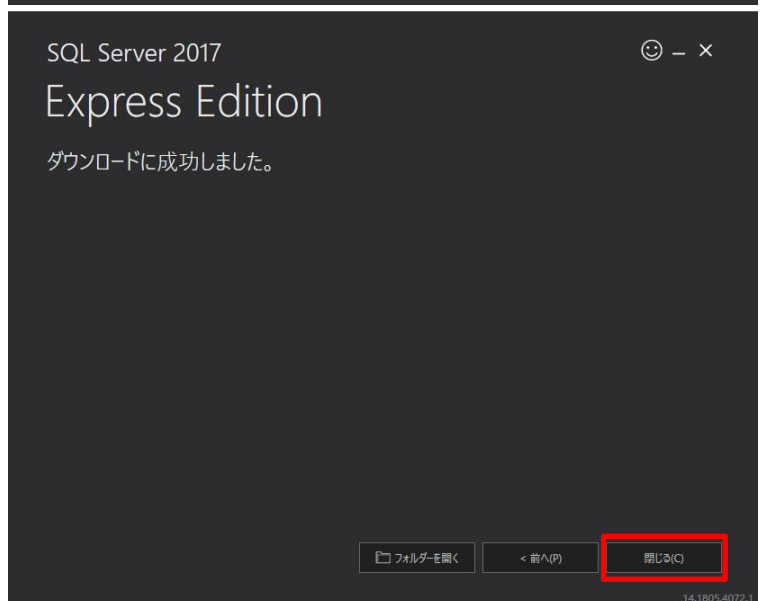
※インターネットに接続できる場合は、「基本」を選択することで標準的な設定でインストールすることができます。

※KSC がインターネットに接続できない環境にある場合、インターネット接続ができる環境でこの作業を実施してください。

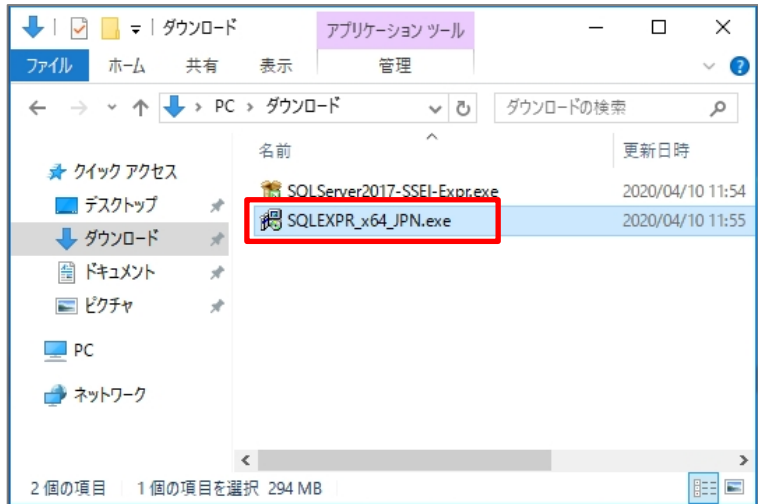
(4) 「ダウンロード」をクリックします。



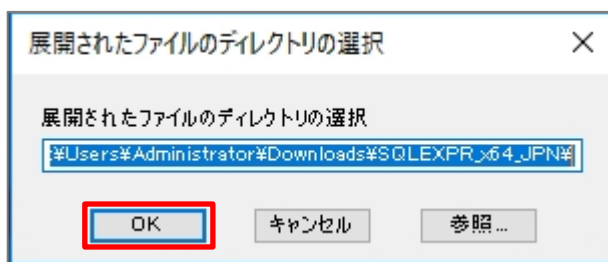
(5) 「ダウンロードに成功しました」画面が表示されたら「閉じる」をクリックします。



(6) ダウンロードしたインストーラーを実行します。



(7) 展開先を選択する画面が表示されるので適切な場所を指定し、「OK」をクリックします。

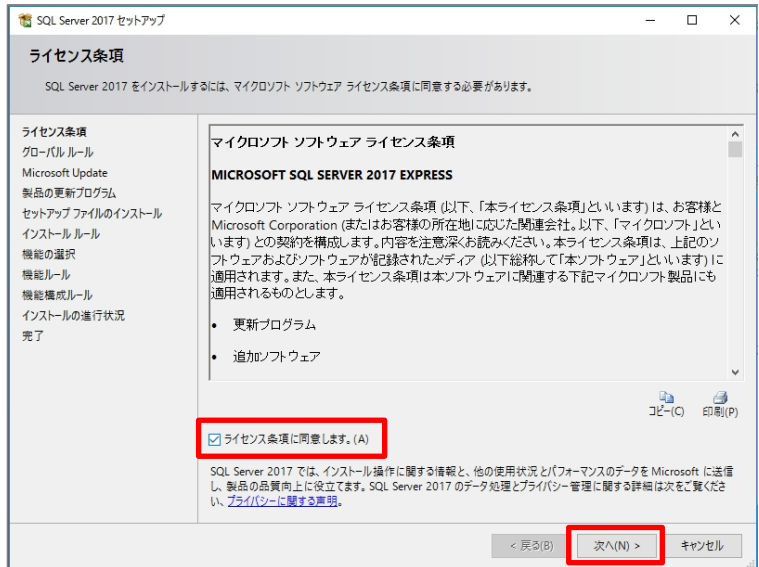


(8) SQL Server インストールセンターが表示されます。

「SQL Server の新規スタンドアロンインストールを実行するか、既存のインストールに機能を追加」をクリックします。



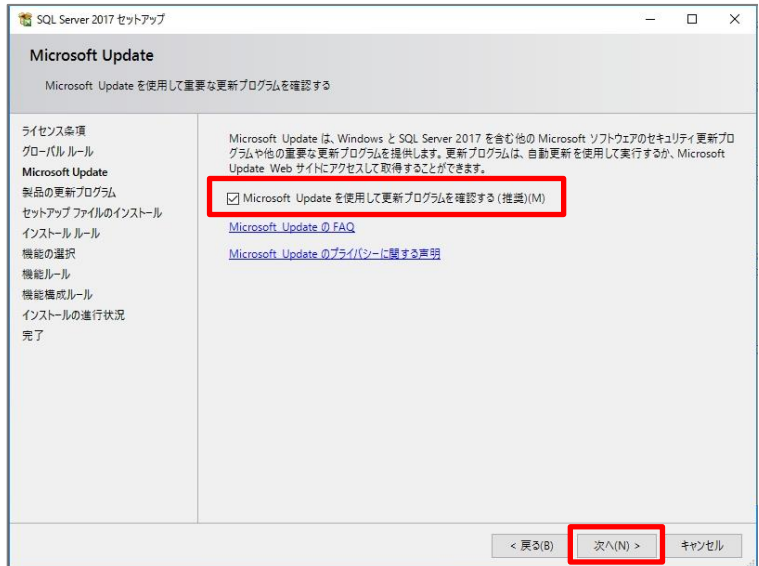
(9) 「ライセンス条項に同意します」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



(10) 「Microsoft Update を使用して更新プログラムを確認する」にチェックをいれ、「次へ」をクリックします。

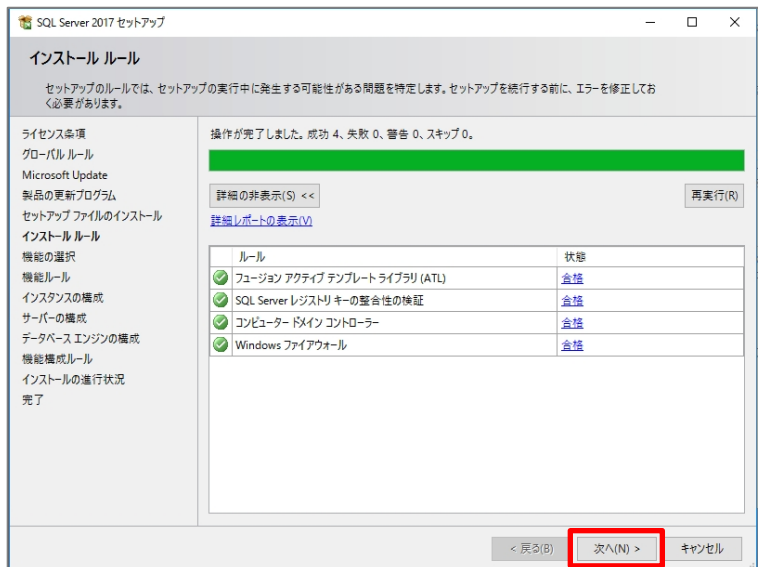
注)

Windows ワークステーションに KSC をインストールする場合、この画面が異なります。



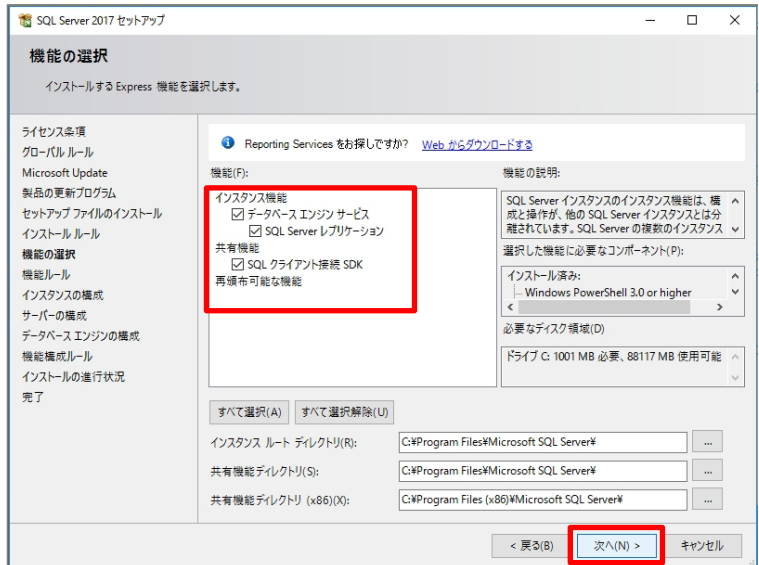
(11) インストールルール画面では各項目で「合格」になっていることを確認し、「次へ」をクリックします。

※この画面は何もせず自動的に次の画面へ遷移する場合があります。

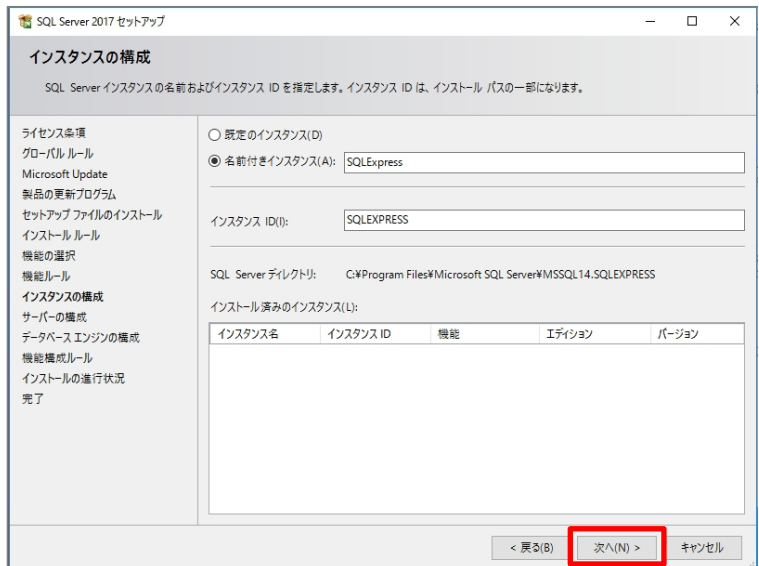


(12) 以下の機能にチェックが入っていることを確認し、「次へ」をクリックします。

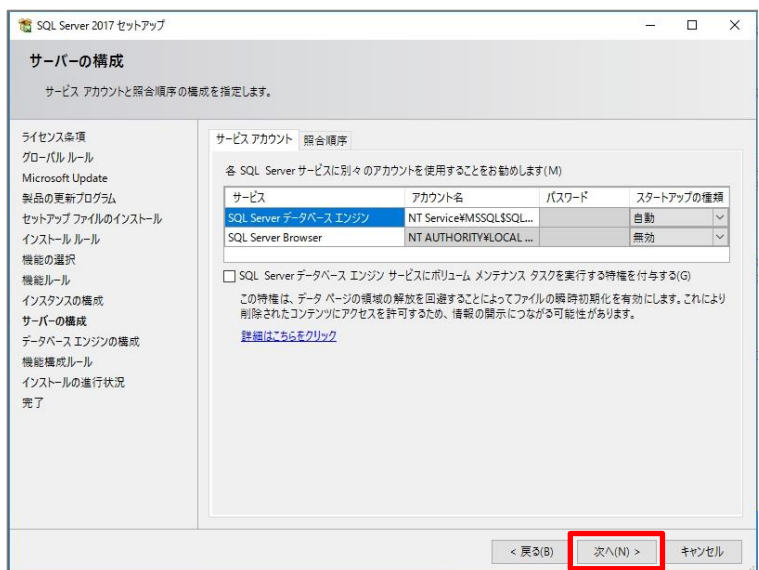
- ・データベースエンジンサービス
- ・SQL Server レプリケーション
- ・SQL クライアント接続 SDK



(13) インスタンス名を設定を行います。
ここでは既定値の「SQLExpress」を設定した状態で「次へ」をクリックします。



(14) サービスアカウントや照会順序の設定を行います。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

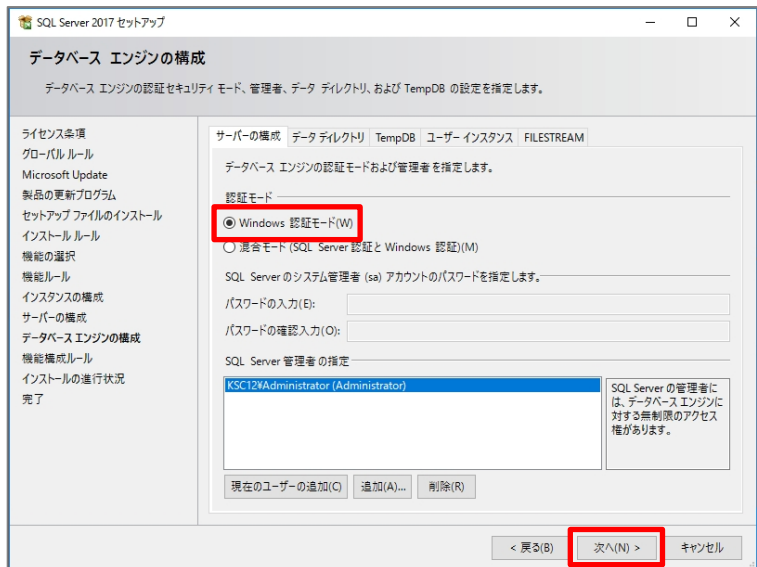


(15) データベースエンジンの設定を行います。

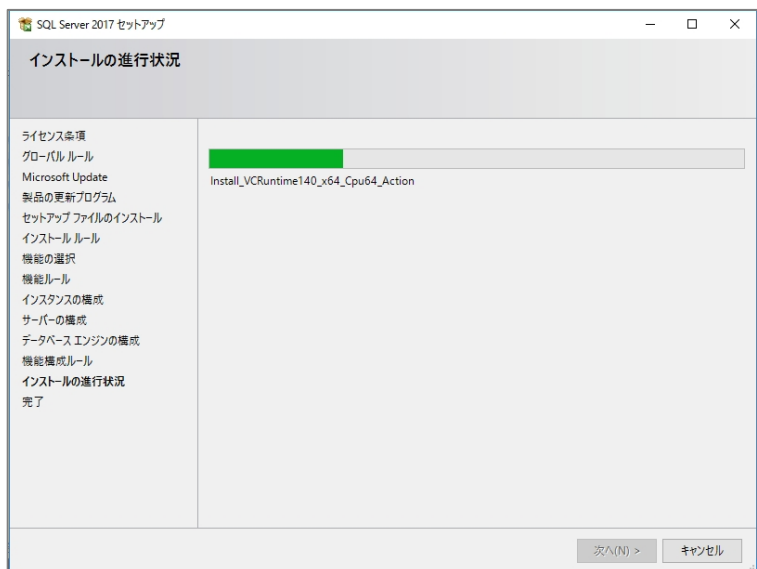
ここでは初期設定のまま「次へ」をクリックします。

注)

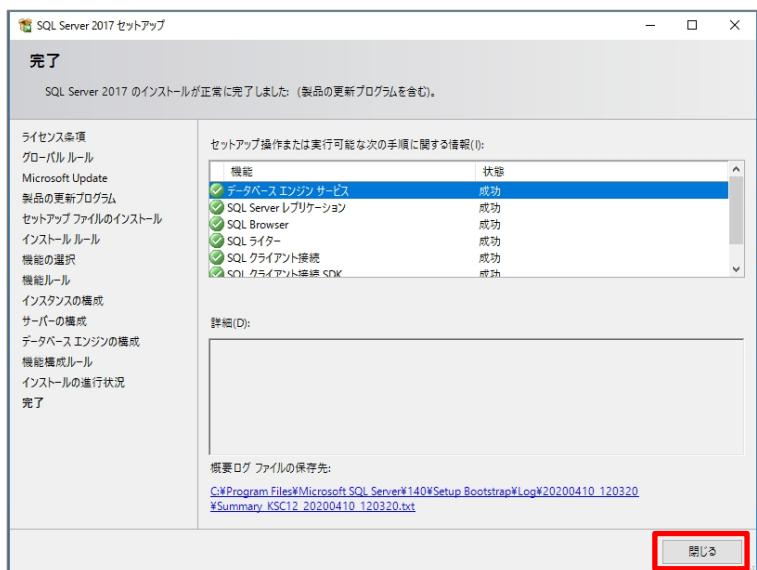
認証モードは必ず「Windows 認証モード」を選択してください。



(16) インストールが開始されます。
完了するまでしばらくお待ちください。



(17) インストールが正常に完了したことを確認し、「閉じる」をクリックします。



本章は以上です。

3. KSC のインストール

本章では、KSC のインストール、及び初期設定についてご説明します。

ここでは SQL がインストールされたサーバーと同一のコンピューター上に KSC をインストールします。

3.1. KSC のインストール

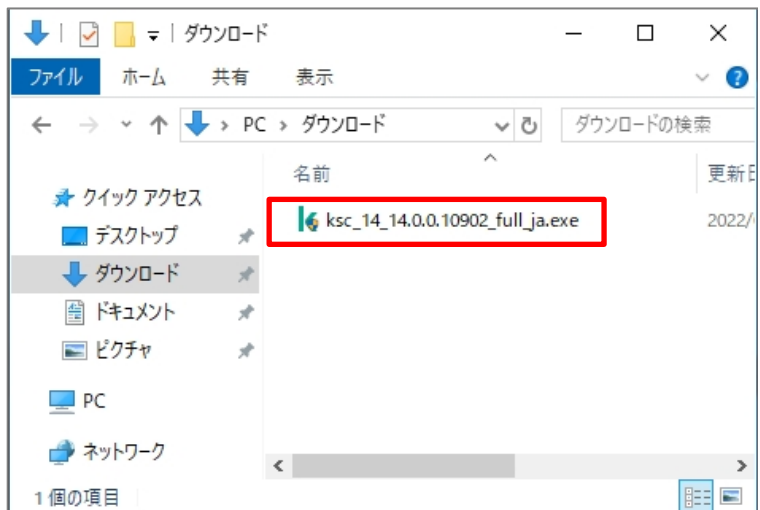
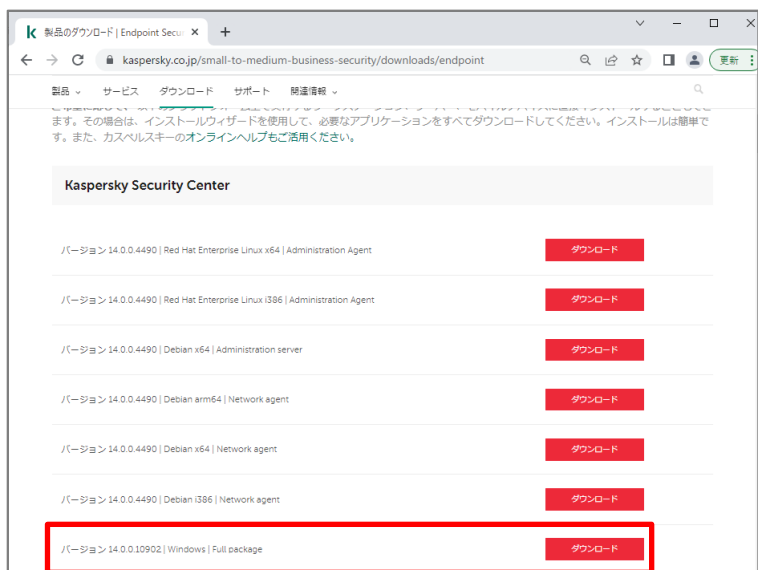
KSC のインストールを行います。

- (1) 最新版のインストーラーは下記より入手できます。

<https://www.kaspersky.co.jp/small-to-medium-business-security/downloads/security-center>

※「**Windows | Full package**」をダウンロードしてください。

- (2) ダウンロードしたインストーラーを実行します。



- (3) インストールウィザードが起動されます。
「Kaspersky Security Center 14 管理サーバーのインストール」をクリックします。

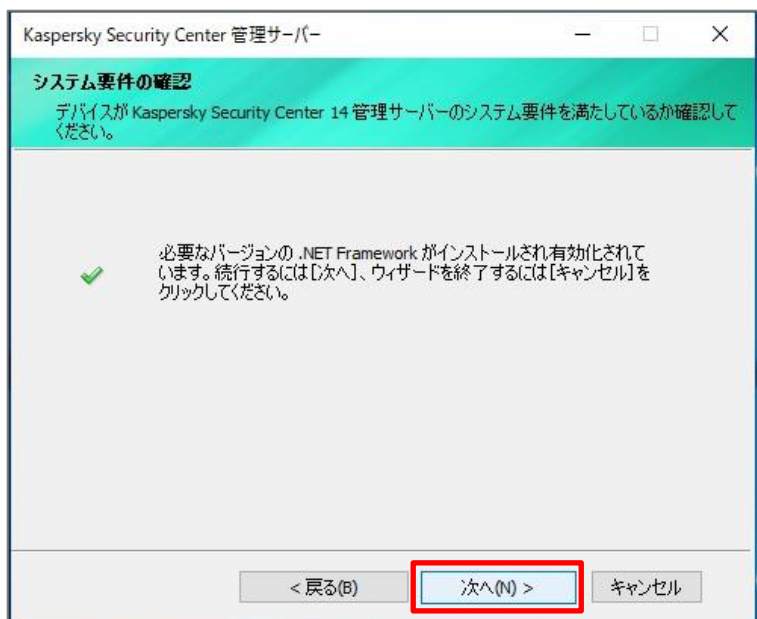


- (4) セットアップ開始画面が表示されるので
「次へ」をクリックします。



- (5) KSC のインストールに必要なコンポーネントのチェックが行われます。
要件を満たしていることを確認し、「次へ」をクリックします。

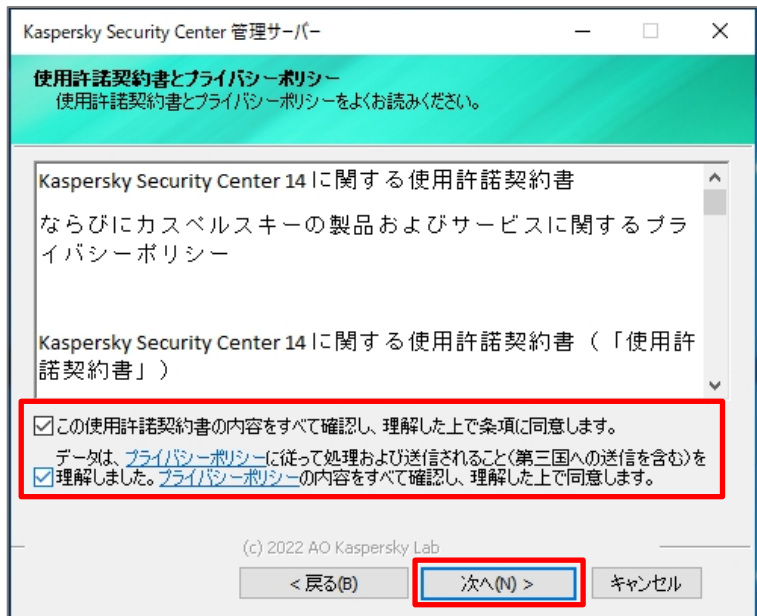
.NET Framework の警告が表示された場合は一度ウィザードを終了し、問題を解消してからインストールを実施してください。



(6) 使用許諾契約書とプライバシーポリシーに関する画面が表示されます。

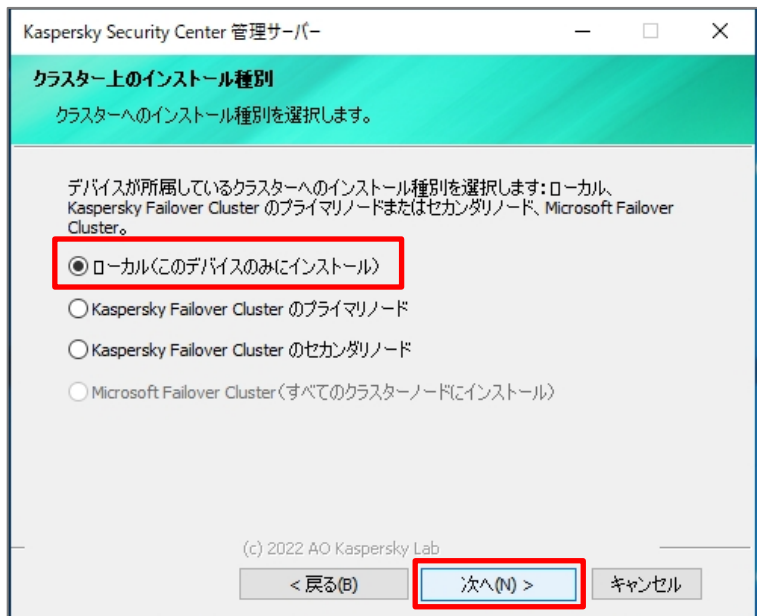
以下の 2 つにチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

- ・使用許諾契約書
- ・プライバシーポリシー



(7) インストールの種別を選択します。

ここでは、管理サーバー機能をこの OS 上にインストールするため、「ローカル（このデバイスだけにインストール）」を選択し、「次へ」をクリックします。

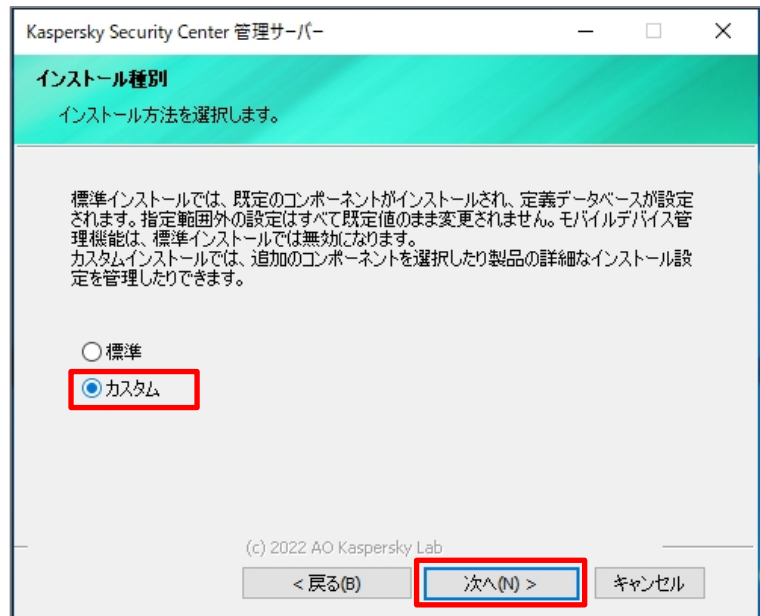


(8) インストール方法を選択します。

ここでは「カスタム」を選択し、「次へ」をクリックします。

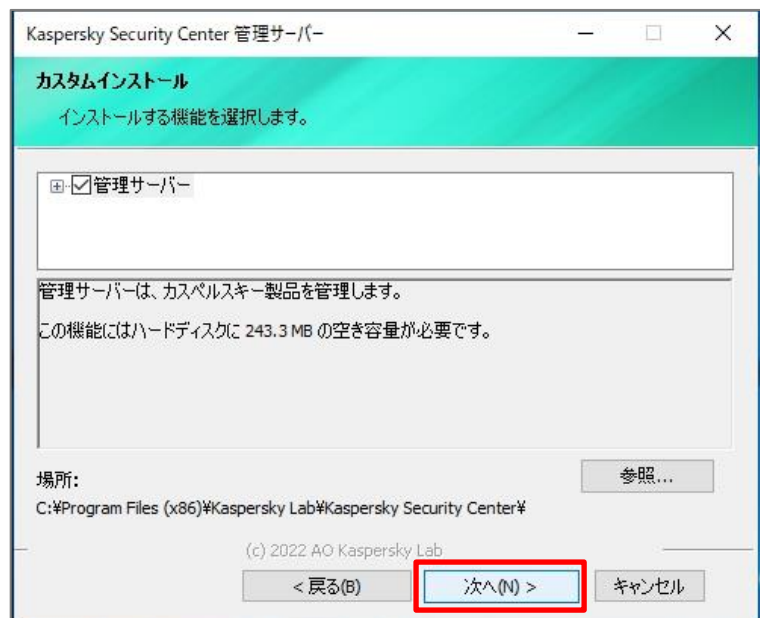
注)

「標準」を選択した場合、サービスアカウント、共有フォルダー設定、ポート等の設定画面は表示されません。



(9) インストールするコンポーネント、およびインストール先を設定します。

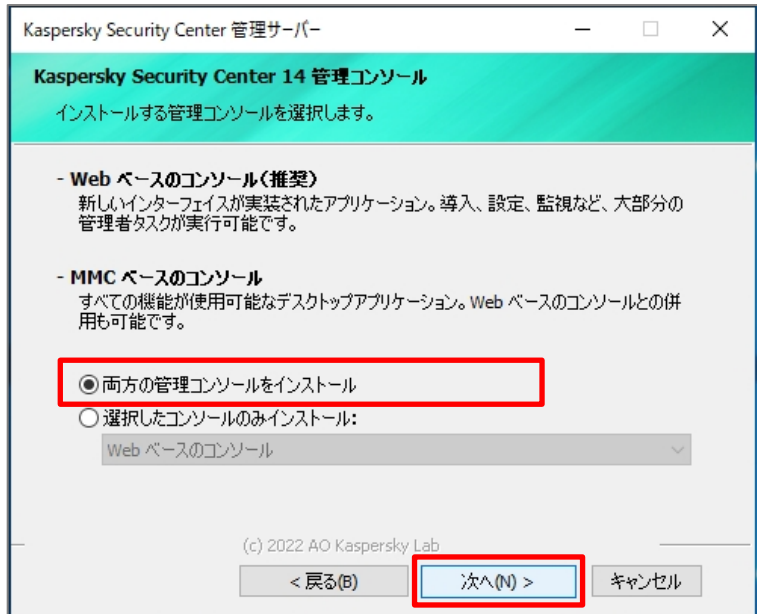
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。



(10) インストールする管理コンソールを設定します。

KSC では MMC ベースと Web ベースの管理コンソールを用意しています。

ここでは「両方の管理コンソールをインストール」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



(11) 管理下にあるデバイス数の規模を選択します。

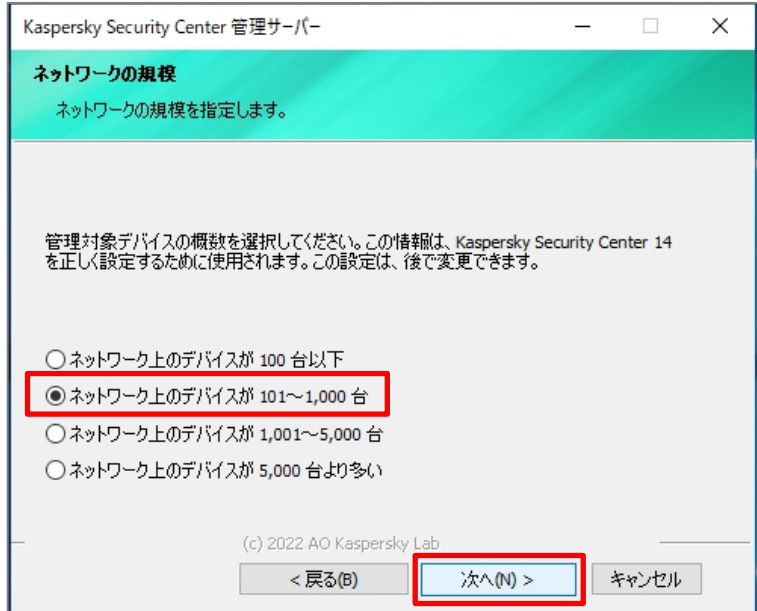
管理するデバイス数に合わせ選択してください。

ここでは「ネットワーク上のデバイスが 101-1,000 台」を選択し、「次へ」をクリックします。

注)

設定した台数により、負荷分散の設定が自動的に行われます。

この設定はインストール後に手動でも行うことが可能です。

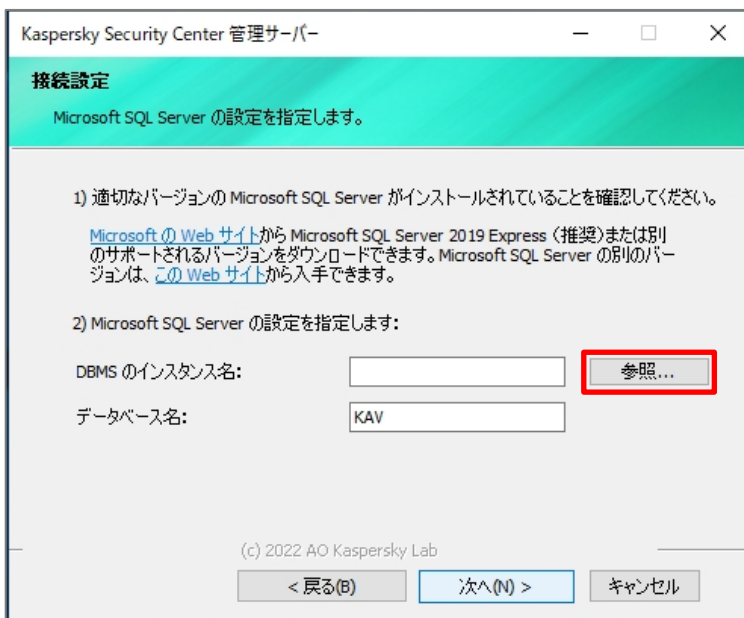


(12) KSC が使用するデータベースを選択します。

ここでは「Microsoft SQL Server (SQL Server Express)」が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

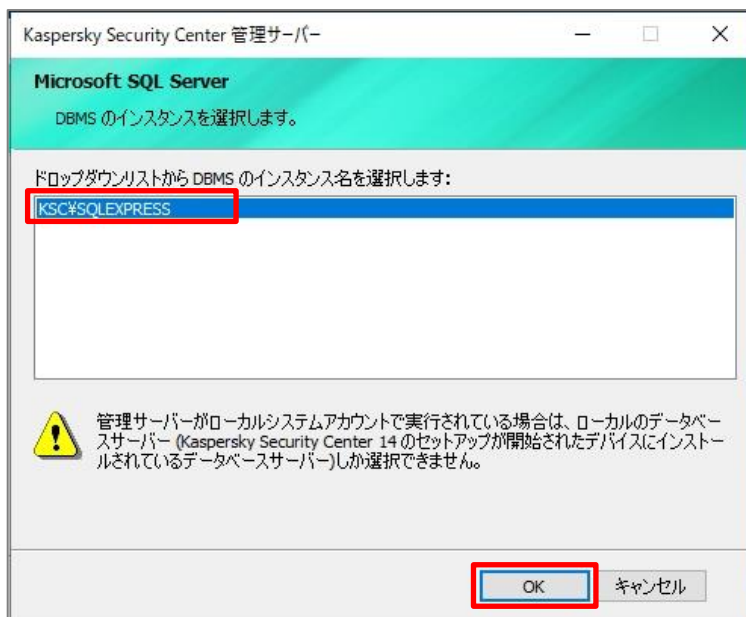


(13) DBMS のインスタンスを選択するため、「参照」をクリックします。

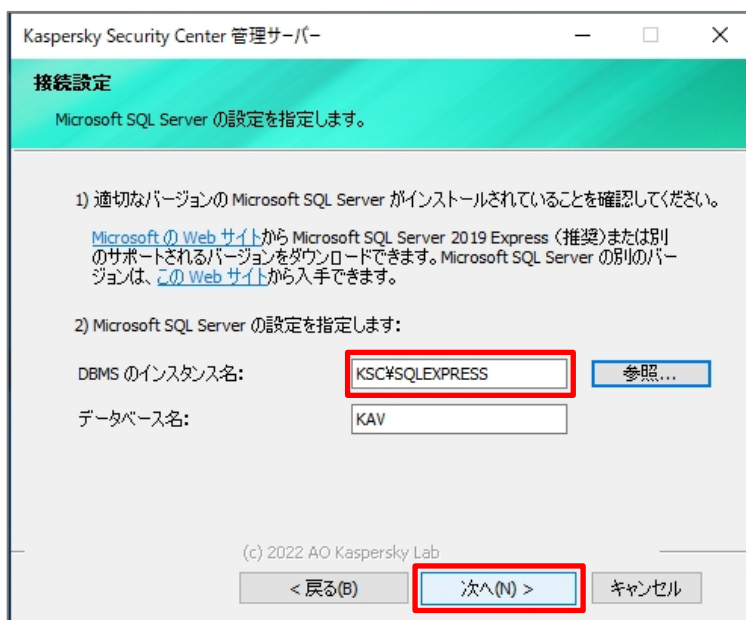


- (14) 自動的に検出された SQL Server が一覧として表示されます。
この中から使用するデータベースを選択し、「OK」をクリックします。

ここでは上述の手順でインストールした「SQLEXPRESS」を選択します。



- (15) 指定したインスタンスが設定されていることを確認し、「次へ」をクリックします。



(16) SQL Server 認証モードを設定します。

ここでは既定値の「Microsoft Windows 認証モード」のまま、「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 管理サーバー

SQL Server 認証モード

認証モードを選択します。

Microsoft SQL Server への接続に使用する認証モードを選択します。SQL Server 認証を選択する場合、アカウント名とパスワードを入力するように要求されます。

☒ Microsoft Windows 認証モード

☐ SQL Server 認証モード

アカウント:

パスワード:

パスワードの確認:

(c) 2022 AO Kaspersky Lab

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

(17) 管理サーバーサービスを起動するアカウントを設定します。

ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 管理サーバー

アカウント

管理サーバーサービスを起動するユーザーアカウントを選択します。

管理サーバーサービスを起動するアカウントを指定します。このアカウントには、管理サーバーデータベースを編集する権限が必要です。

☒ 名前「KL-AK-7771203A008D45」でアカウントを自動生成

☐ アカウントの選択

アカウント: 参照...

パスワード:

パスワードの確認:

(c) 2022 AO Kaspersky Lab

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

(18) KSC サービスのアカウントを設定します。

ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

(19) KSC で使用する共有フォルダーを設定します。

ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

注)

この共有フォルダーはアプリケーションのリモートインストール用のファイルや定義ファイルが格納される場所になり、KSC が起動しているときのみ利用可能です。

ファイル共有(読み取り専用)は全ユーザーで有効です。

(20) KSC への接続設定を行います。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

このポート番号は KSC とクライアントデバイス間の接続に利用します。
もし F/W 等によってポートがブロックされている場合、このポートをブロックしないように設定するか、ここで使用するポートを変更してください。

(21) 管理サーバーのアドレスを設定します。
クライアントが KSC にアクセスするための宛先となる情報を設定します。
リストボックスでは以下を選択できます。

- FQDN 名
- NetBIOS 名

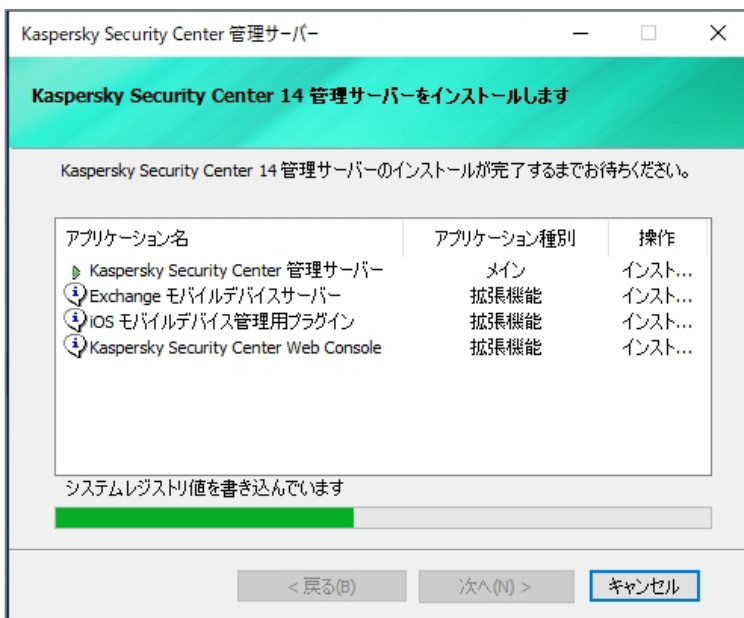
名前解決ができない環境の場合は、IP アドレスを直接入力することも可能です。

ここでは KSC のホスト名を選択し、「次へ」をクリックします。

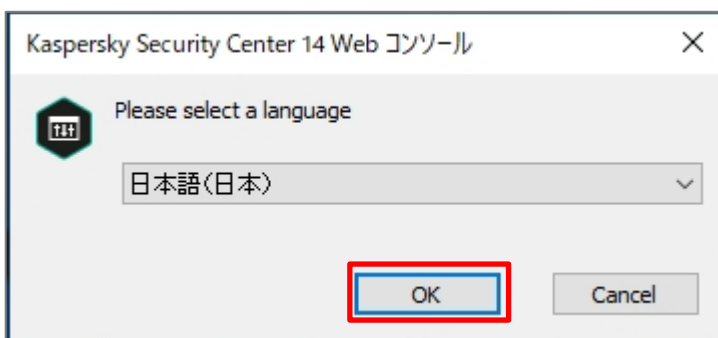
- (22) 「インストール」をクリックすると KSC のインストールが開始されます。



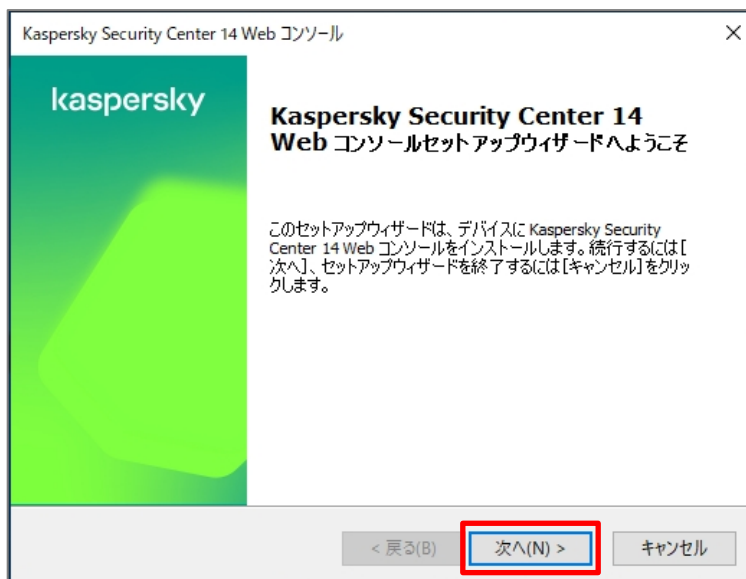
- (23) インストールが開始されます。



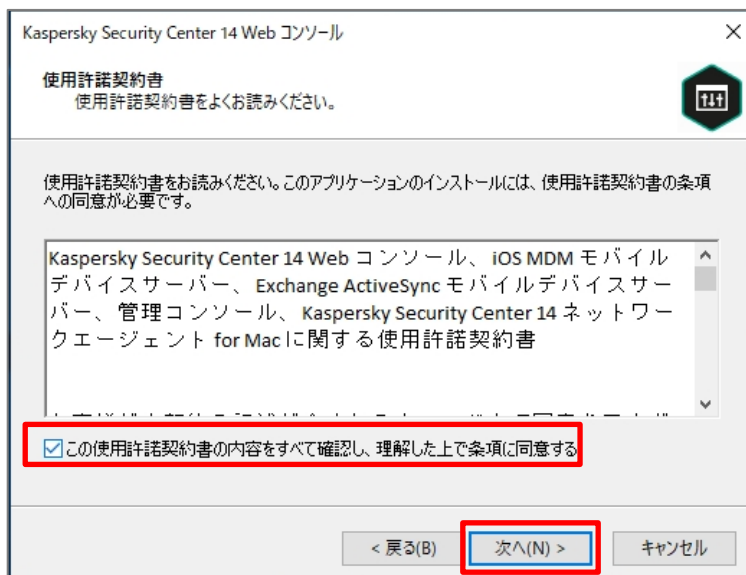
- (24) Web コンソールのインストールが開始されます。
言語設定として「日本語(日本)」が設定されていることを確認し、「OK」をクリックします。



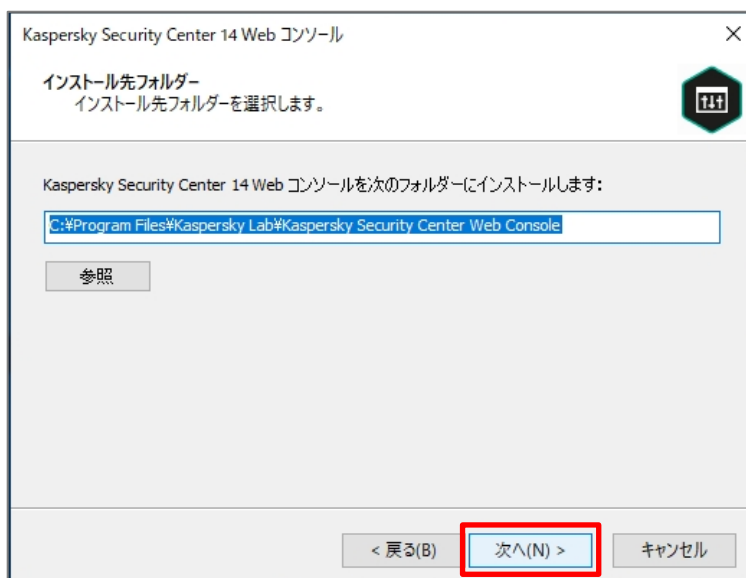
- (25) セットアップ開始画面が表示されるので「次へ」をクリックします。



- (26) 使用許諾契約書に関する画面が表示されます。
チェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- (27) インストール先フォルダーを設定します。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。



- (28) 接続先の設定画面が表示されます。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 14 Web コンソール

Kaspersky Security Center 14 Web コンソールの接続設定
Kaspersky Security Center 14 Web コンソールの接続を設定します。

アドレス

ポート テスト

☒ Kaspersky Security Center 14 Web コンソールの動作の記録を有効にする

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- (29) アカウントの設定画面が表示されます。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 14 Web コンソール

アカウントの設定
Kaspersky Security Center 14 Web コンソールのアカウントを指定します。

Node.js 用のアカウントとサービスのアップデート用のアカウントが Web コンソールの開始とアップデートに必要です。既定のアカウントの使用も、カスタムアカウントの指定も可能です。

☒ 既定のアカウントの使用
☐ カスタムアカウントの指定

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

- (30) 証明書の指定方法画面が表示されます。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 14 Web コンソール

クライアント証明書
証明書の指定方法を選択します。

☒ 新しい証明書の生成
下のドメインが信頼済みかどうか確認してください。
ドメイン

☐ 既存の証明書を選択

CRT 証明書ファイル 参照

KEY 証明書ファイル 参照

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

(31) 信頼済みの管理サーバーリストが表示されます。

KSC のホスト名が選択されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 14 Web コンソール

信頼済みの管理サーバー
信頼済みの管理サーバーへの接続設定を指定します。

Kaspersky Security Center 14 Web コンソールへ接続可能な、信頼済みの管理サーバーのリストを作成する必要があります。インストール後、Kaspersky Security Center 14 Web コンソールはリストに記載された管理サーバーとのみ接続します。アップグレードモードでセットアップウィザードを起動し、管理サーバーのリストをインストール後に編集することも可能です。

信頼済みの管理サーバーのリスト

名前	アドレス	ポート	証明書
KSC	localhost	13299	C:\ProgramData\K...

追加
削除
編集

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

(32) 「Identify and Access Manager」の設定が表示されます。

ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

Kaspersky Security Center 14 Web コンソール

Identity and Access Manager (IAM)
Identity and Access Manager のインストール設定を指定します。

Identity and Access Manager を使用すると、Kaspersky Security Center と連携するカスペルスキー製品間でのシングルサインオンサービスが使用できます。

☐ Identity and Access Manager のインストール

KAS 管理者ポート 4445
Facade 管理者ポート 2444
Facade 対話ポート 2445

< 戻る(B) **次へ(N) >** キャンセル

(33) 「インストール」をクリックすると、Web コンソールのインストールが開始されます。

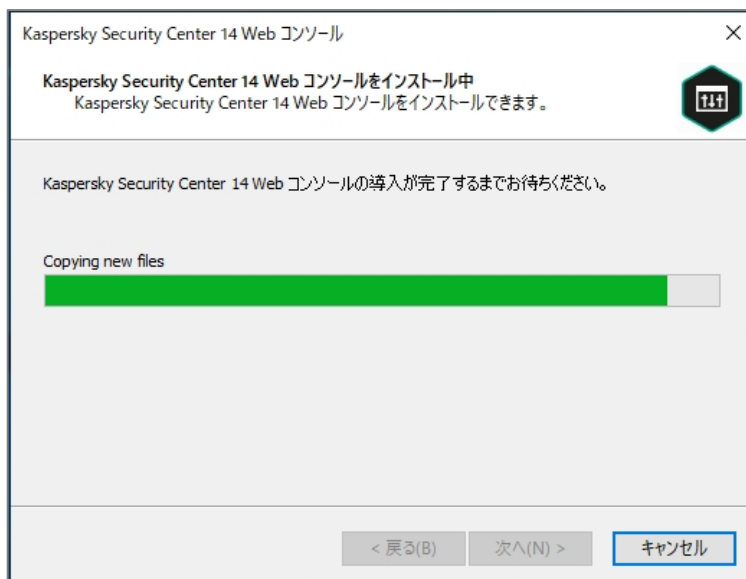
Kaspersky Security Center 14 Web コンソール

Kaspersky Security Center 14 Web コンソールのインストール準備完了
Kaspersky Security Center 14 Web コンソールをインストールできます。

このセットアップウィザードは、Kaspersky Security Center 14 Web コンソールをこのデバイスに導入します。[インストール]をクリックしてインストールを開始するか、[キャンセル]をクリックしてウィザードを終了してください。

< 戻る(B) **インストール** キャンセル

- (34) インストールが完了するまでしばらくお待ちください。



- (35) インストールが正常に完了したことを確認し、「終了」をクリックします。

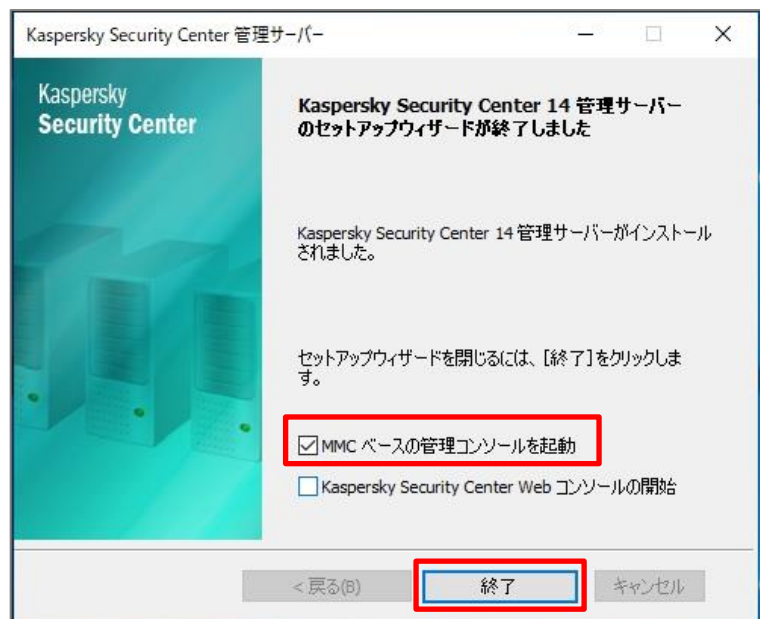


(36) インストールが正常に完了したことを確認します。

引き続き初期設定を行うため、「MMC ベースの管理コンソールを起動」にチェックを入れ、「終了」をクリックします。

※手順(10)で両方、または Web コンソールのみをインストールするようにした場合、既定で「Web コンソールの開始」が有効となります。

「MMC ベース・・・」にチェックを入れ、後続の処理を進めてください。



本節は以上です。

3.2. KSC の初期設定

KSC の初期設定を行います。

「3.1 KSC のインストール」の手順(36)で「MMC ベースの管理コンソールを起動」にチェックを入れていた場合、管理コンソールが自動的に起動します。

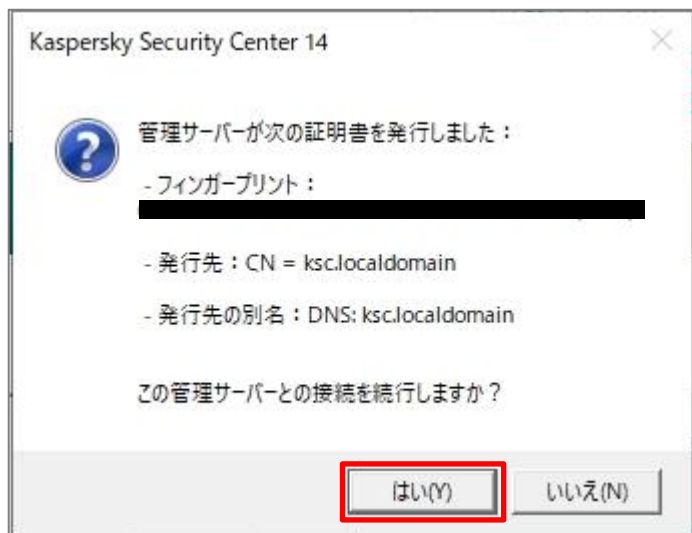
チェックを入れずに「終了」をクリックした場合は Windows のメニューから「Kaspersky Security Center 14」を実行し、管理コンソールを起動してください。

なお、ここで実施するクイックスタートウィザードにて設定する内容は、ウィザード実施後でも管理コンソール上から設定・変更が可能です。

- (1) 管理コンソールにて「管理サーバー<ホスト名>」を選択します。



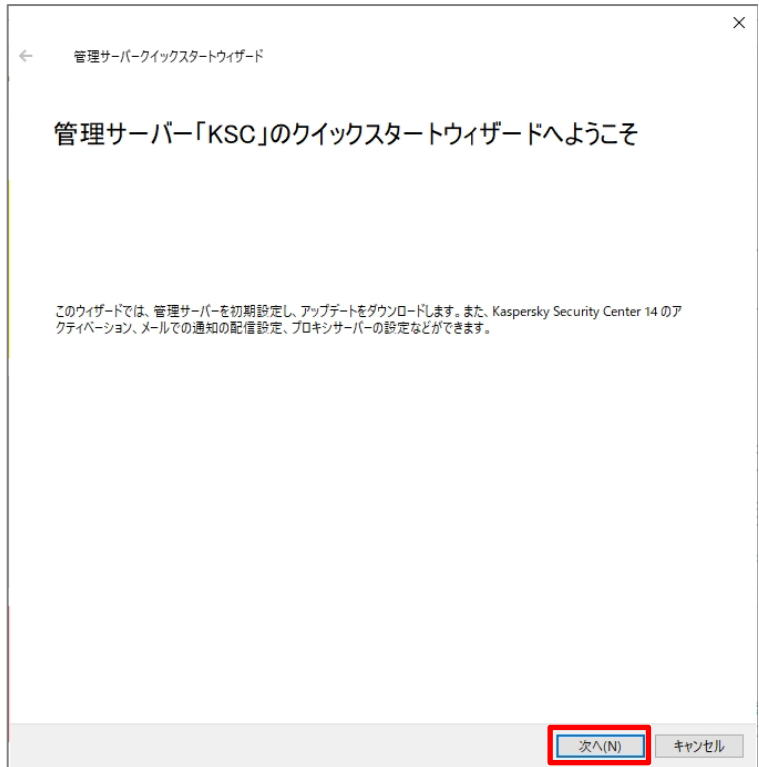
- (2) 右図が表示されるので「はい」をクリックします。



- (3) 「管理サーバー「KSC」のクイックスタートウィザードへようこそ」の画面が表示されるので、「次へ」をクリックします。

注)

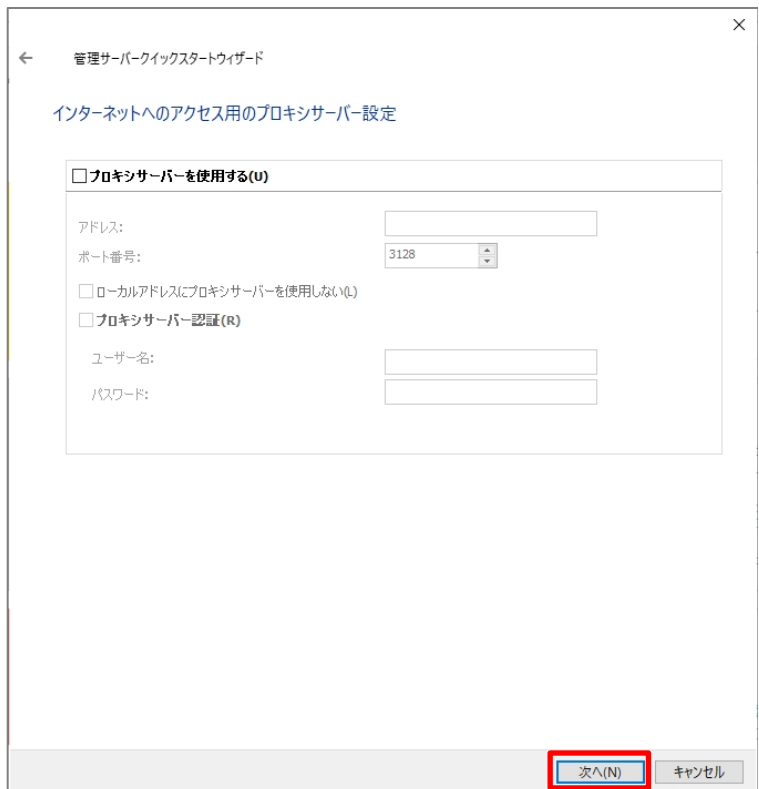
このウィザードを閉じてしまった場合、コンソールにて「管理サーバー<ホスト名>」を右クリックし、「すべてのタスク」-「管理サーバークイックスタートウィザード」をクリックすることで、再度表示することができます。



- (4) インターネットへのアクセスするためのプロキシサーバー設定を行います。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

注)

インターネットへ接続する際にプロキシサーバーを経由する場合、OS側の設定とは別に、ここで設定が必要です。



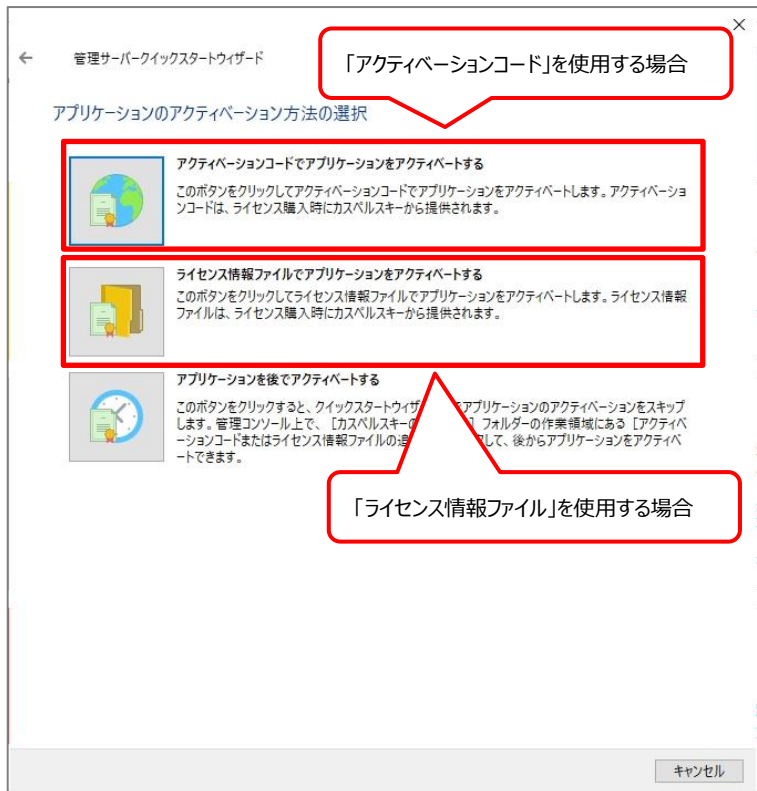
(5) アクティベート方法を選択します。

アクティベーションコードを使用する場合は、「**アクティベーションコードでアプリケーションをアクティベーションする**」を選択します。

”手順(6)”以降をご参照ください。

ライセンス情報ファイルを使用する場合は、「**ライセンス情報ファイルでアクティベーションをアクティベートする**」を選択します。

”手順(9)”以降をご参照ください。

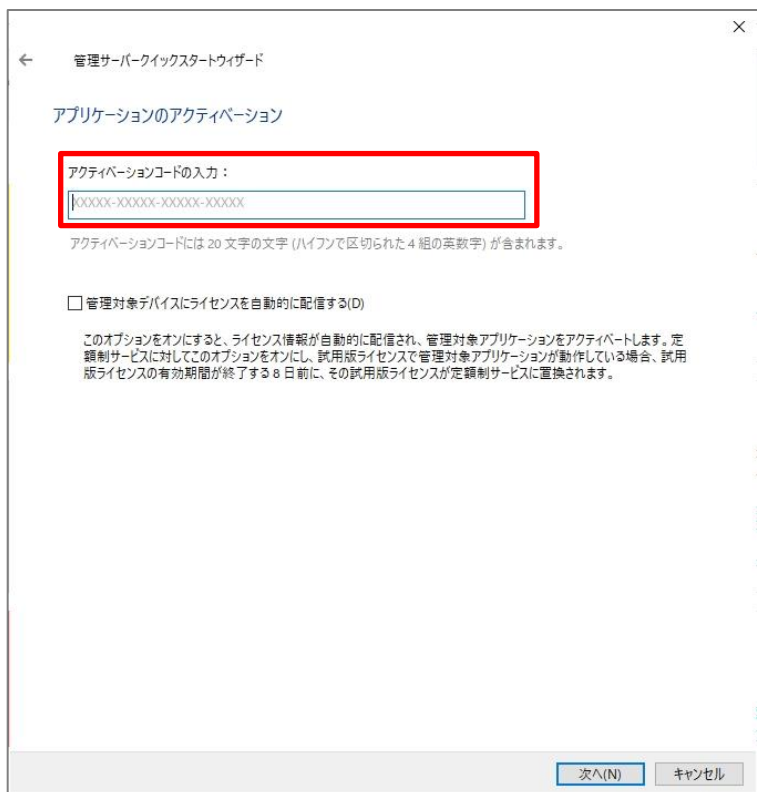


「アクティベーションコード」を使用する場合

(6) 「アクティベーションコードの入力」欄に、入手したアクティベーションコードを入力します。

注)

アクティベーションコードを使用する場合、KSC はインターネットへ接続できる環境である必要があります。



(7) 「管理対象デバイスにライセンスを自動的に配信する」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

注)

「管理対象デバイスにライセンスを自動的に配信する」にチェックを入れていない場合、管理下のデバイスに対しライセンスの適用が自動で行われません。

別途タスクを作成し、ライセンスを適用する必要があります。

(8) インターネット経由でアクティベーションが行われます。

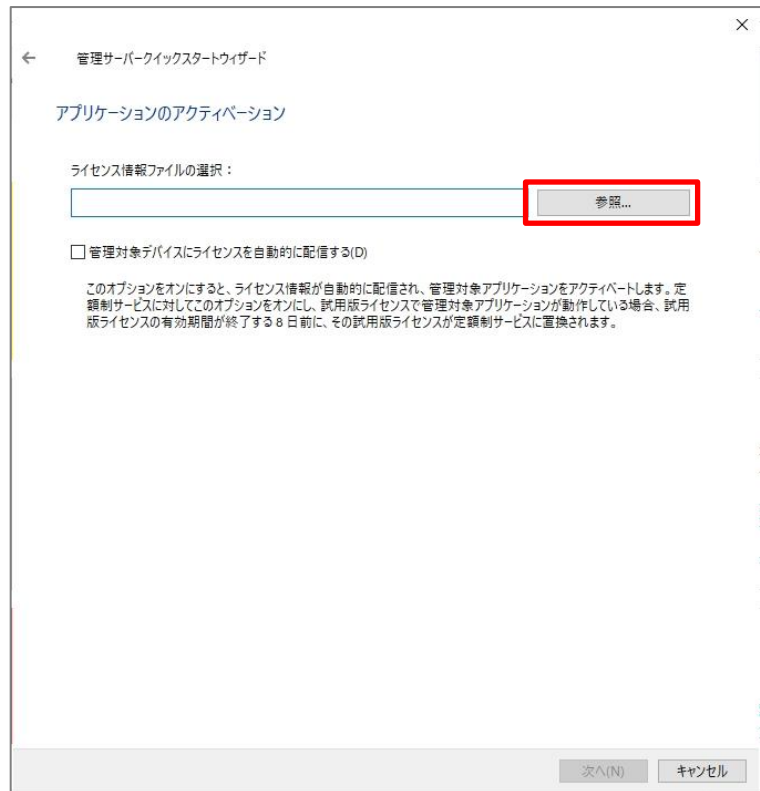
ここで失敗する場合は、インターネット接続に問題がないかどうか確認してください。

“手順(12)”へ進んでください。

「ライセンス情報ファイル」を使用する場合

- (9) 事前にサーバー上にライセンス情報ファイルを格納します。

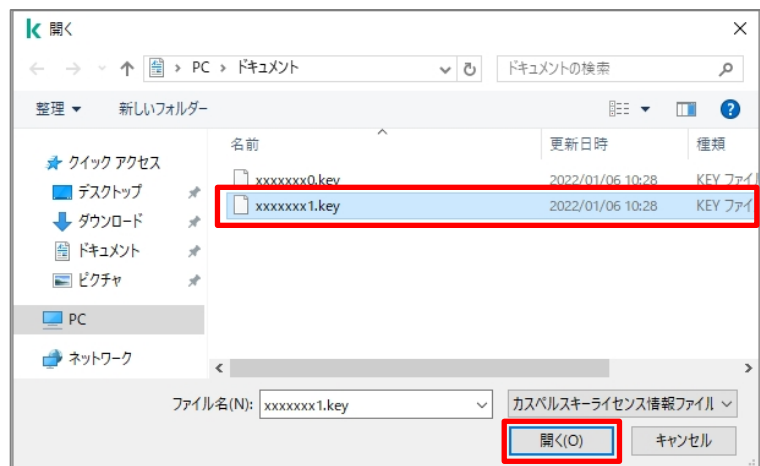
ライセンス情報ファイルを選択するため、「参照」をクリックします。



- (10) ライセンス情報ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

選択するキーファイル情報はライセンスに同梱されている txt ファイル内に記載されています。

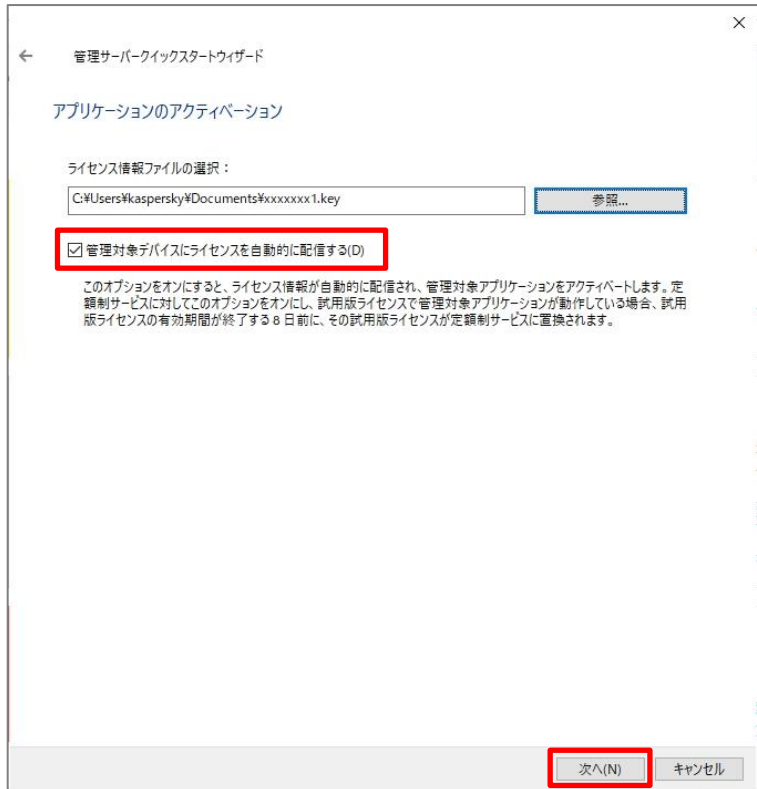
「Kaspersky Security for WS and FS」と表記されているキーファイルを選択してください。



- (11) 「管理対象デバイスにライセンスを自動的に配信する」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

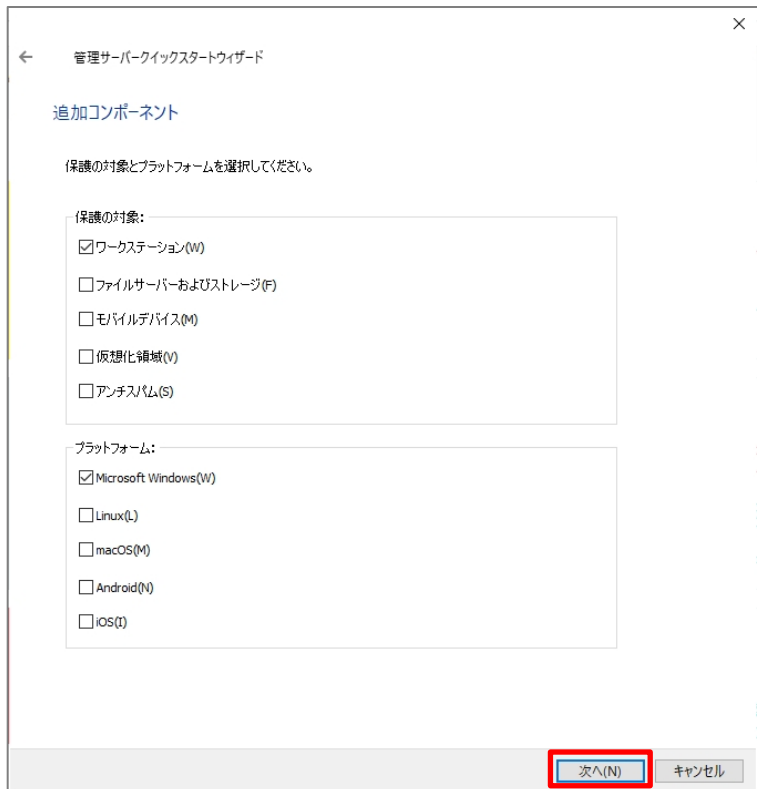
注)

「管理対象デバイスにライセンスを自動的に配信する」にチェックを入れていない場合、管理下のデバイスに対し、ライセンスの適用が自動で行われません。
別途タスクを作成し、ライセンスを適用する必要があります。



- (12) 保護対象のプラットフォームと OS を選択します。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

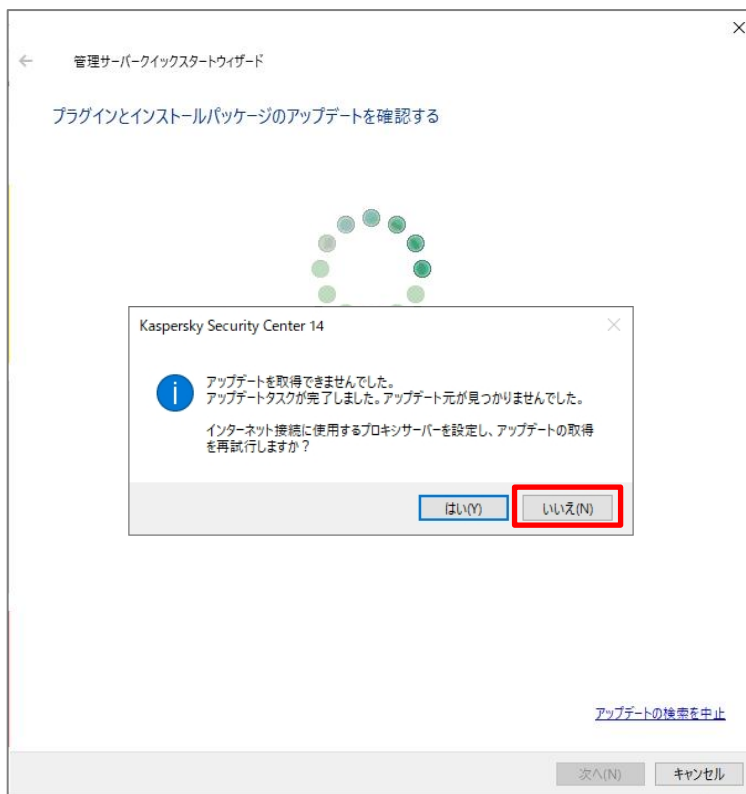
ファイルサーバーやモバイルデバイス、Linux や MacOSなどを保護対象とする場合は、それぞれチェックを入れてください。



注)

クローズド環境など、インターネットに接続できない環境に KSC を構築している場合、右記の画面が表示されます。

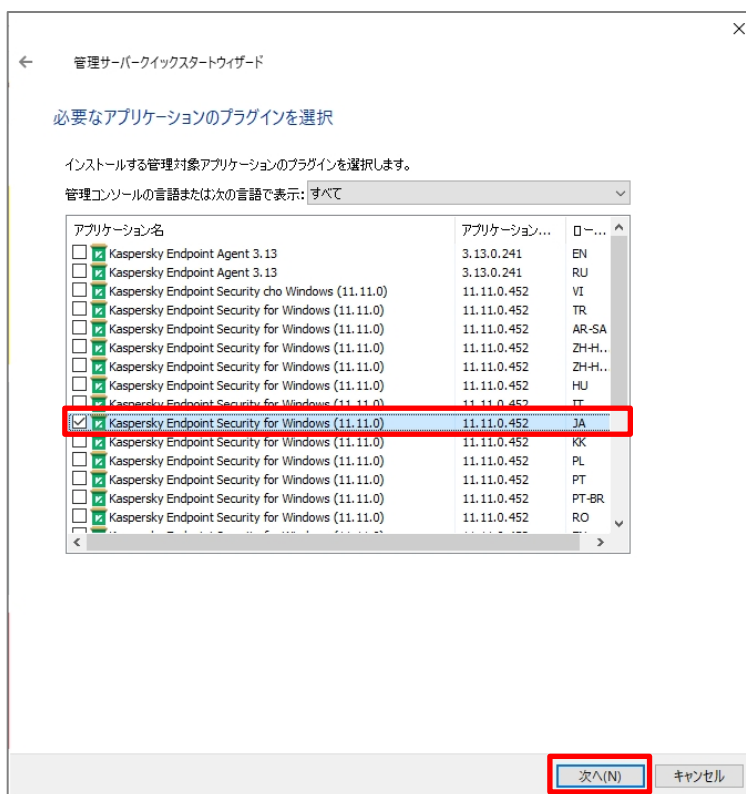
「いいえ」をクリックし、「手順(22)」へ進んでください。



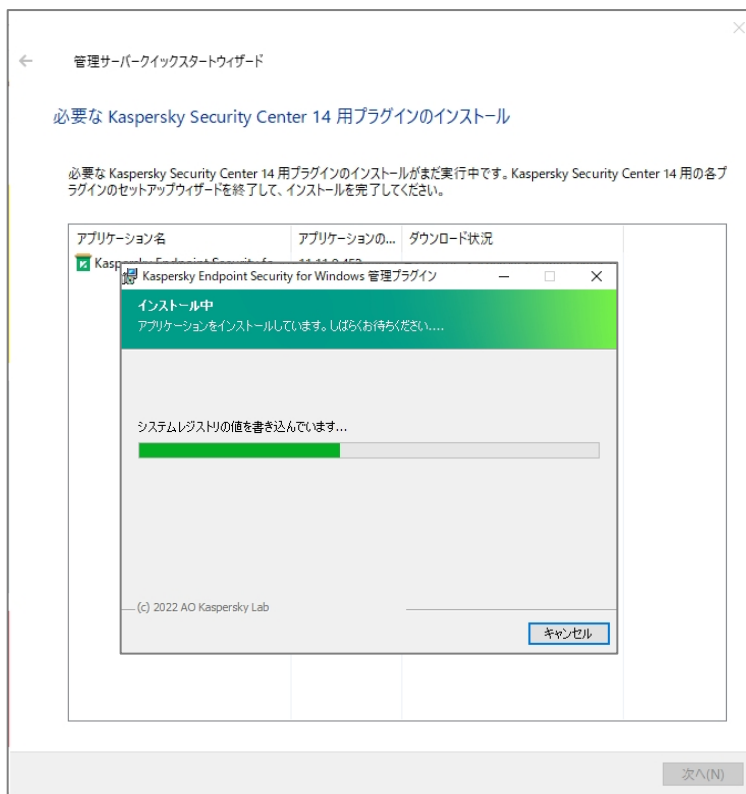
(13) “(12)”にて選択した内容をもとに、アプリケーション管理プラグインの情報が表示されます。

既定では、自動的にアプリケーション(日本語版)に対しチェックが入っております。

ここでは「Kaspersky Endpoint Security for Windows(xx.xx) (JA)」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- (14) 選択したアプリケーション管理プラグインのインストールが行われます。

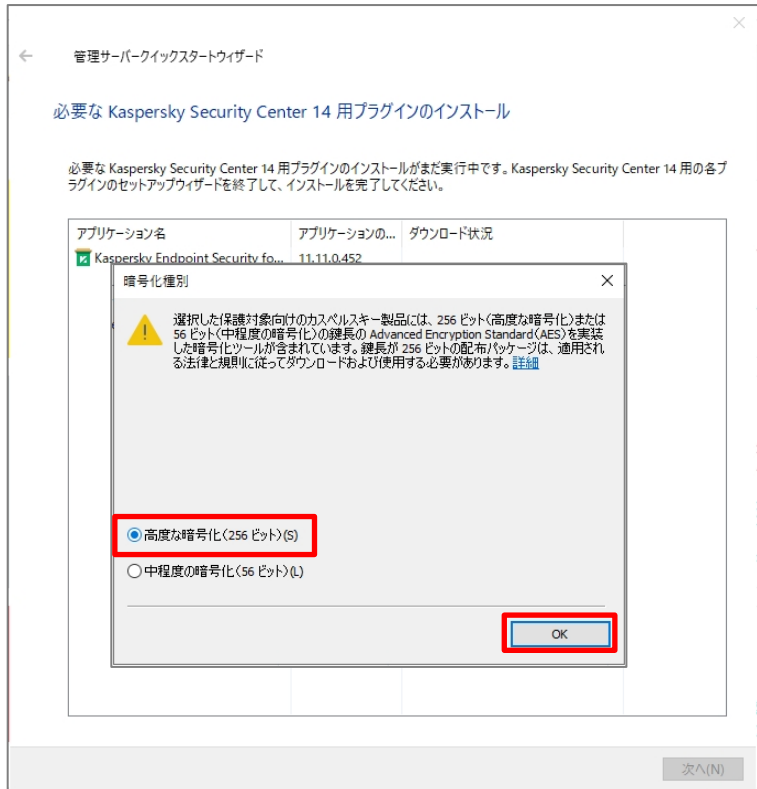


- (15) アプリケーション管理プラグインのインストールが正常に完了したことを確認し、「OK」をクリックします。



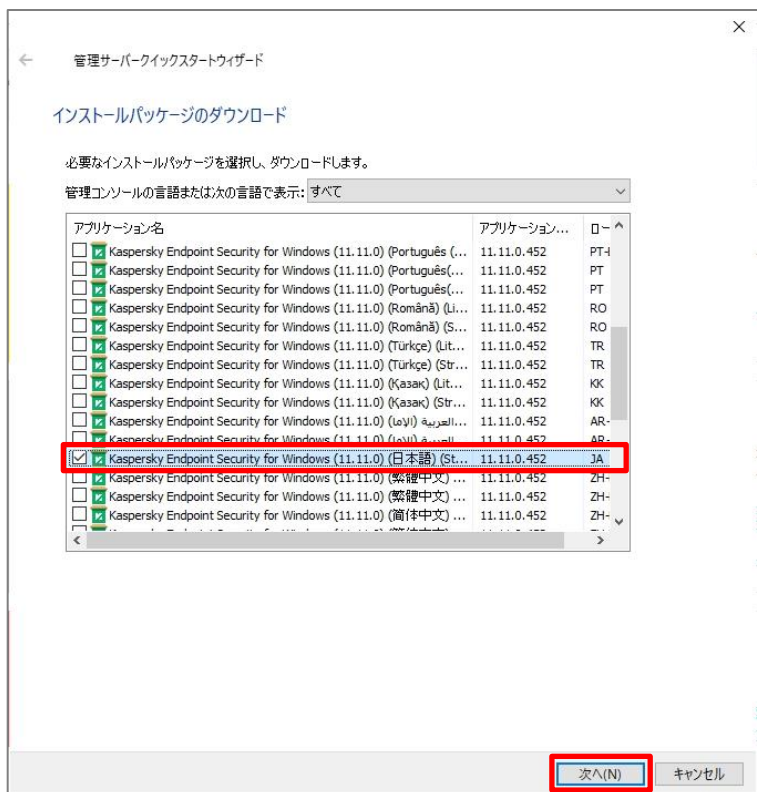
(16) アプリケーションの暗号化種別を選択します。

「高度な暗号化（256 ビット）」を選択し、「OK」をクリックします。

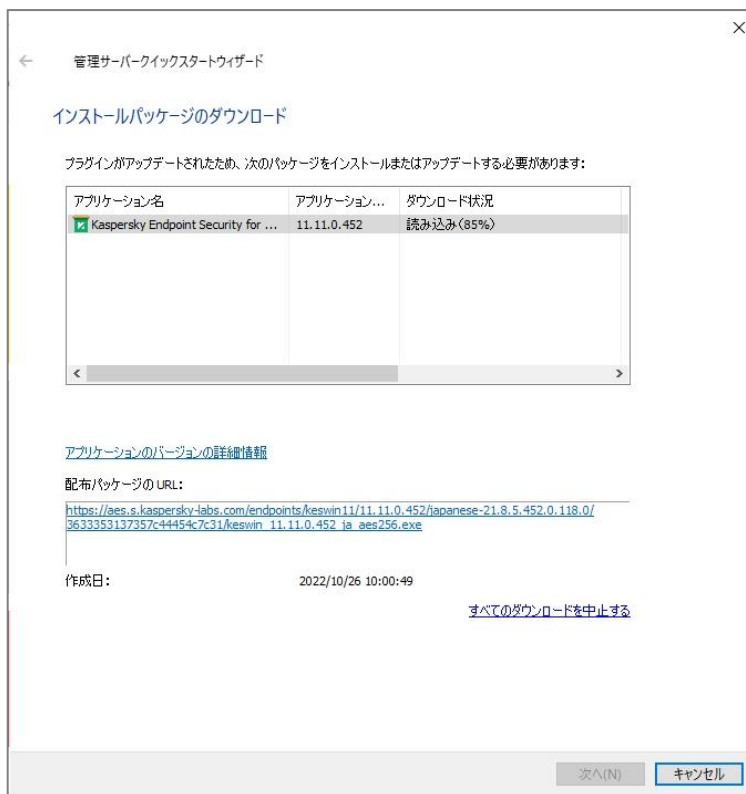


(17) “(12)”にて選択した内容をもとに、アプリケーションのインストールパッケージ情報が表示されます。

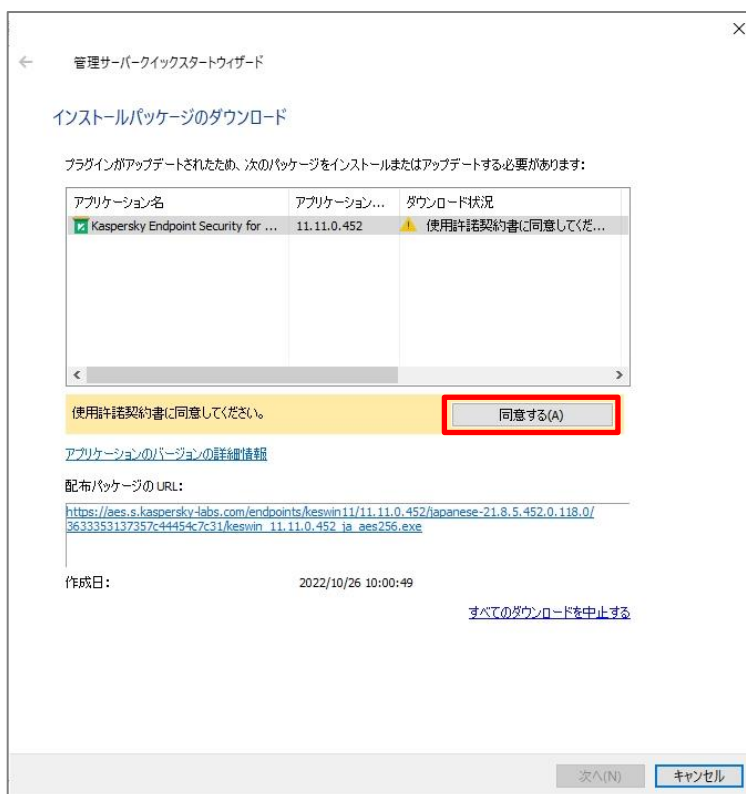
ここでは「Kaspersky Endpoint Security for Windows(xx.xx) (JA)」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



- (18) インストールパッケージのダウンロードが行われます。



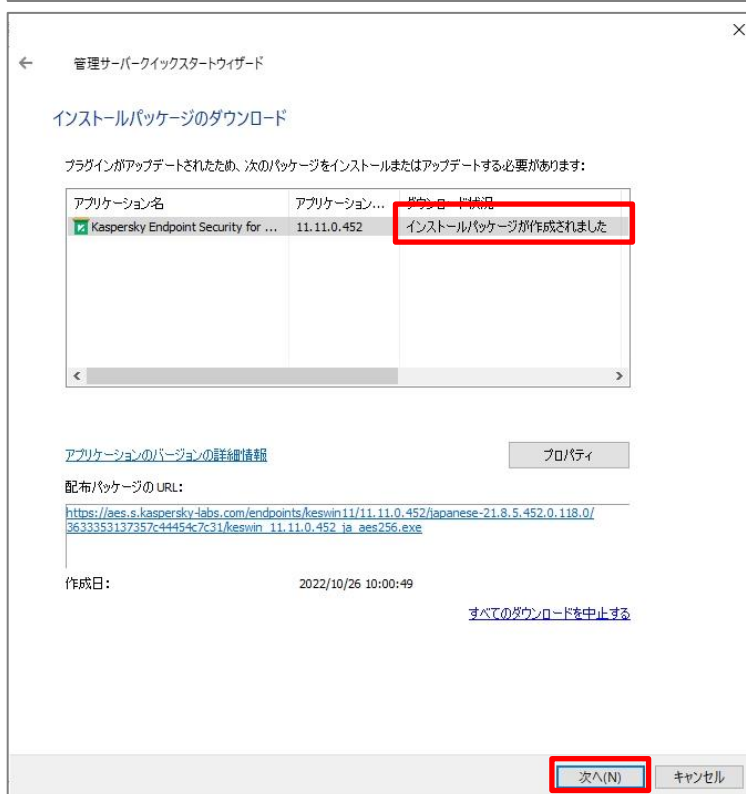
- (19) 使用許諾契約書の同意が求められます。「同意する」をクリックします。



- (20) 「使用許諾契約書」と「プライバシーポリシー」の両方にチェックを入れ、「すべて同意する」をクリックします。



- (21) 「インストールパッケージが作成されました」と表示されたことを確認し、「次へ」をクリックします。



(22) 「Kaspersky Security Network」に関する設定を行います。

「Kaspersky Security Network への参加に同意する」を選択し、「次へ」をクリックします。

管理サーバークイックスタートウィザード

Kaspersky Security Network

- ▶ 脅威への迅速な対応
- ▶ 高パフォーマンスの保護機能
- ▶ 誤検知率の低下

[詳細...](#)

この文書には、次のカスペルスキー製品向けの KSN 声明が含まれています：
 Kaspersky Security Center
 Kaspersky Security Center Cloud コンソール
 お客様が現在ご使用になっている、または選択したカスペルスキー製品向けのこの声明を注意深くお読みください。

KASPERSKY SECURITY NETWORK (KSN) に関する声明 (KASPERSKY SECURITY CENTER 向け)

Kaspersky Security Network に関する声明 (以下「KSN 声明」といいます) は、コンピュータソフトウェア Kaspersky Security Center 14 (以下「本ソフトウェア」といいます) に適用されます。
 本声明で使用される用語はすべて当該使用許諾契約書の「定義」の条で説明されているものと同じ意味を持ちます。

「データ処理に関する条件」の項をはじめに本ソフトウェアの使用許諾契約および声明では、声明で示されるデータの転送および処理に関する条件、責任および手続きについて説明します。同意する前に、声明の条項および声明内で参照される文書を注意深くお読みください。

[新しいウィンドウで開く](#)

☒ Kaspersky Security Network への参加に同意する(A)
☐ Kaspersky Security Network への参加に同意しない(N)

次へ(N) キャンセル

(23) メール通知の送信方法を設定します。
 ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

管理サーバークイックスタートウィザード

メール通知の送信方法の設定

受信者(メールアドレス):

SMTP サーバー:

SMTP サーバーのポート: 25

☐ ESMTP 認証を使用する(E)

ユーザー名:

パスワード:

テストメッセージの送信(S) 設定(S)

次へ(N) キャンセル

(24) KESB Advanced 契約のライセンスをアクティベーションコードにて登録した場合、KPVM のアップデート管理設定画面が表示されます。

詳細は以下サイトの「パッチマネジメント脆弱性管理」の資料をご参照ください。

<https://kasperskylabs.jp/biz/>

ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。



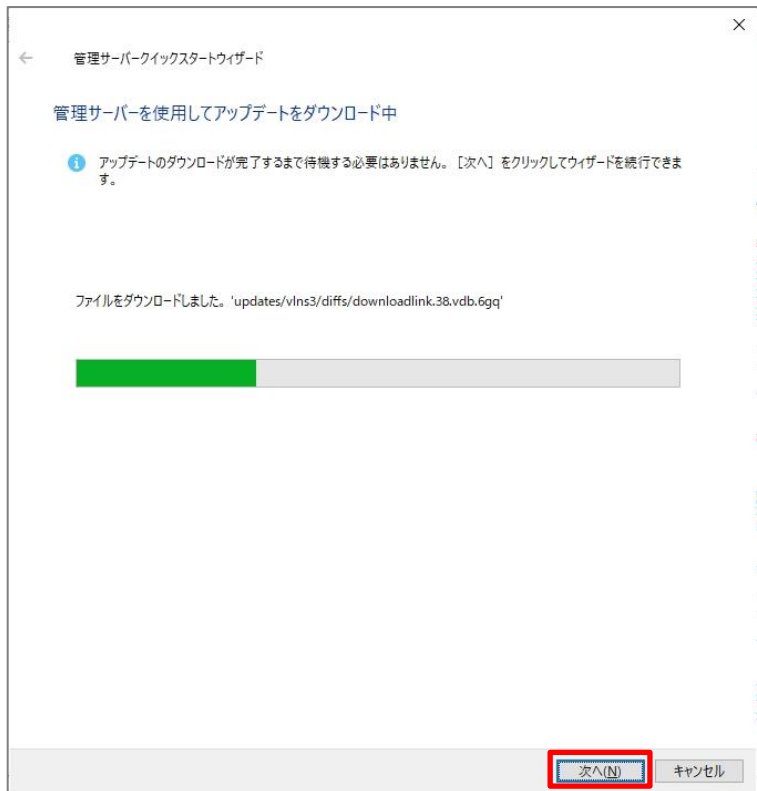
(25) 初期プロテクションの設定画面が表示されます。
ここで KSC を運用するうえで必要なポリシーやタスクが自動的に生成されます。



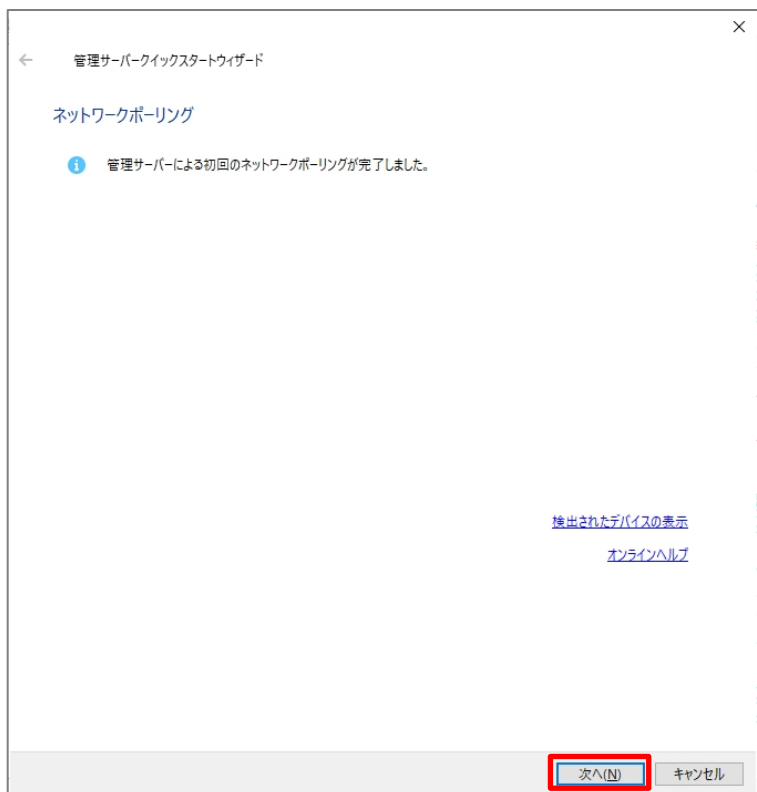
(26) 管理サーバー経由でのアップデートのダウンロードが開始されます。

定義ファイルの取得が問題なく実施されていることを確認し、「次へ」をクリックします。
(定義ファイルの取得はバックグラウンドで続行されます。)

クローズド環境の場合は、「次へ」をクリックしてください。

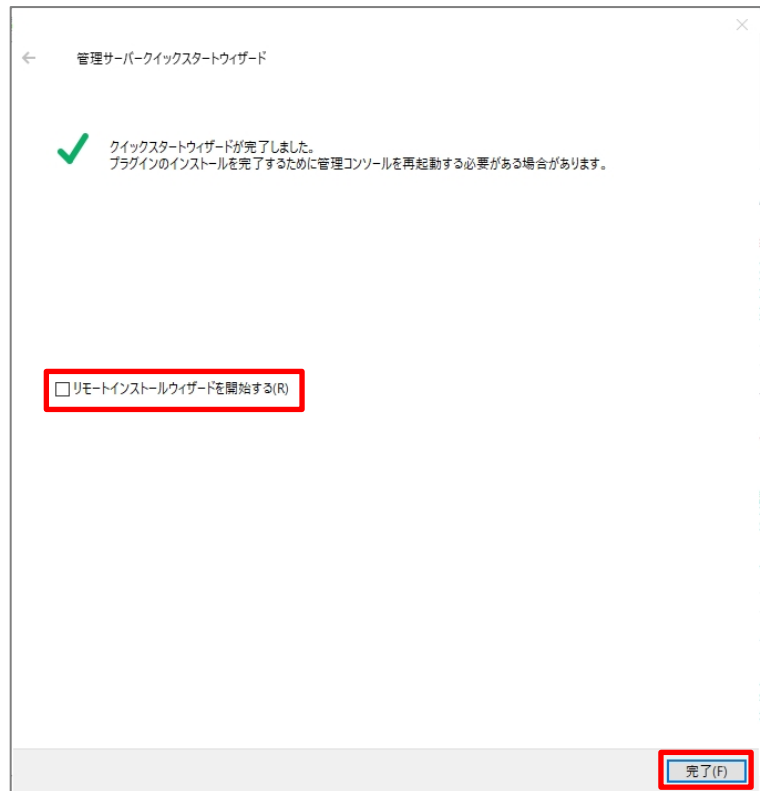


(27) ネットワークポーリング画面が表示されます。
ポーリングが問題なく実施されていることを確認し、「次へ」をクリックします。(ポーリングはバックグラウンドで続行されます。)



(28) クイックスタートウィザードの終了画面が表示されます。

「リモートインストールウィザードを開始する」のチェックを外し、「完了」をクリックします。



本章は以上です。

1. KSC に対しインストールパッケージの登録

KSC13 では、KES のインストールパッケージは用意されておらず、使用する場合は別途登録する必要があります。

インターネット接続ができる環境であれば、「**3.2 KSC の初期設定**」の手順を実施することでウィザード内にてインストールパッケージの登録を行うことができます。

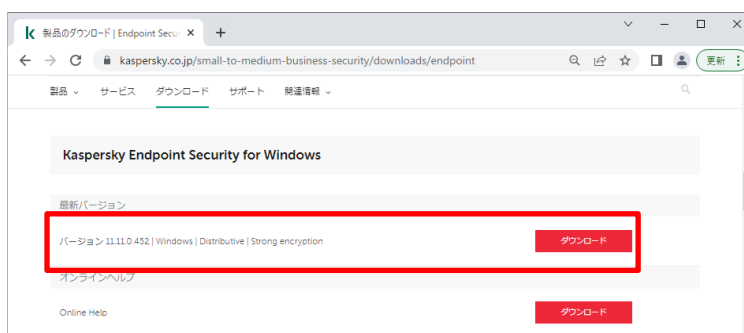
ここでは、「**3.2 KSC の初期設定**」の手順を実施せず、手動でインストールパッケージの登録を行う手順についてご説明します。

新しいバージョンの KES がリリースされ、KSC に登録する場合はこの手順を実施してください。

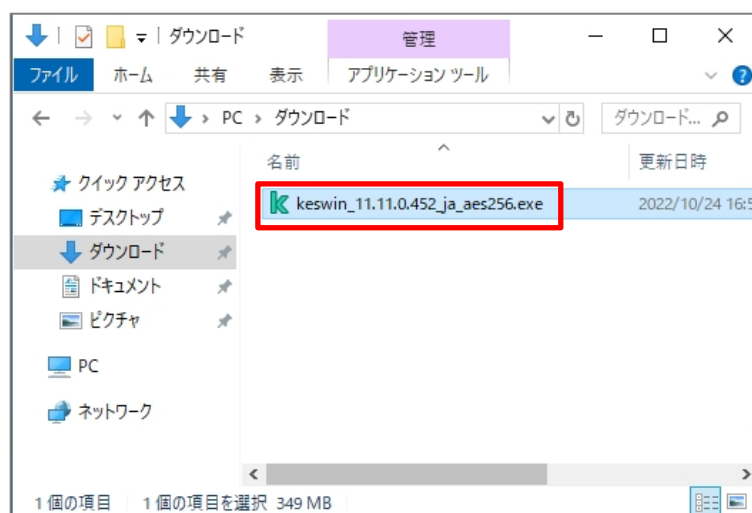
ここではインストーラーは「Kaspersky Endpoint Security for Windows 11.11.0.452」を使用しています。

- (1) 以下 URL にアクセスし、「Kaspersky Endpoint Security for Windows」のインストーラーをダウンロードします。

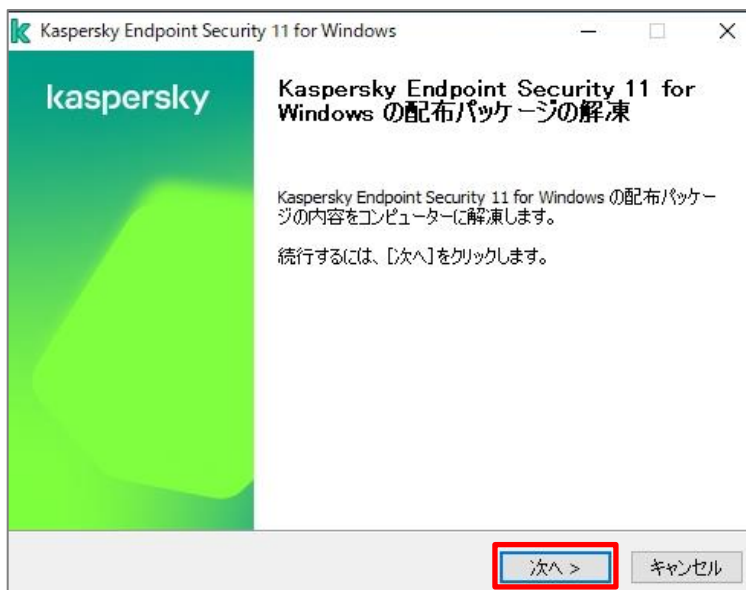
<https://www.kaspersky.co.jp/small-to-medium-business-security/downloads/endpoint>



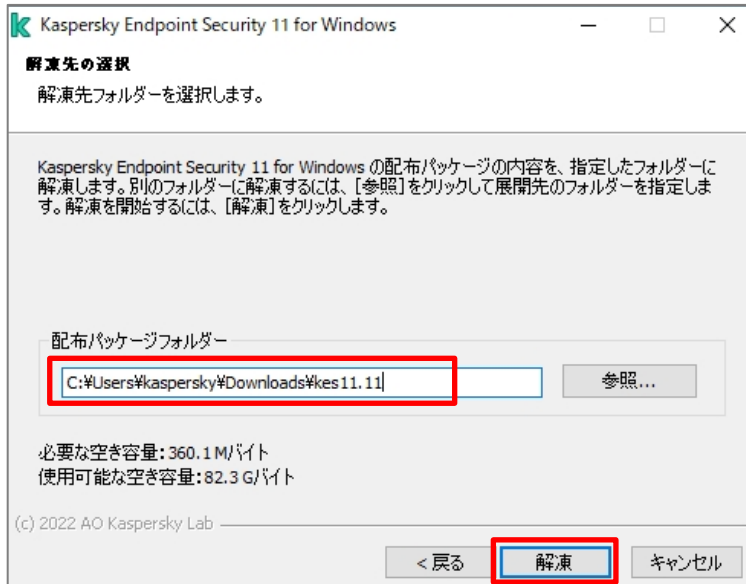
- (2) ダウンロードしたインストーラーを実行します。



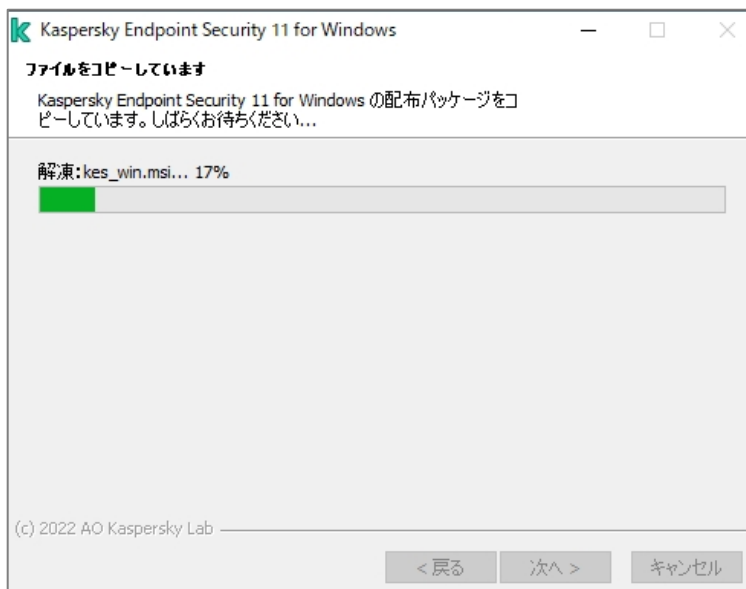
- (3) 解凍ウィザードが起動します。「次へ」をクリックします。



- (4) 解凍するフォルダーを指定し、「解凍」をクリックします。



- (5) 解凍処理が行われます。



- (6) 正常に解凍処理が完了したことを確認し、「終了」をクリックします。



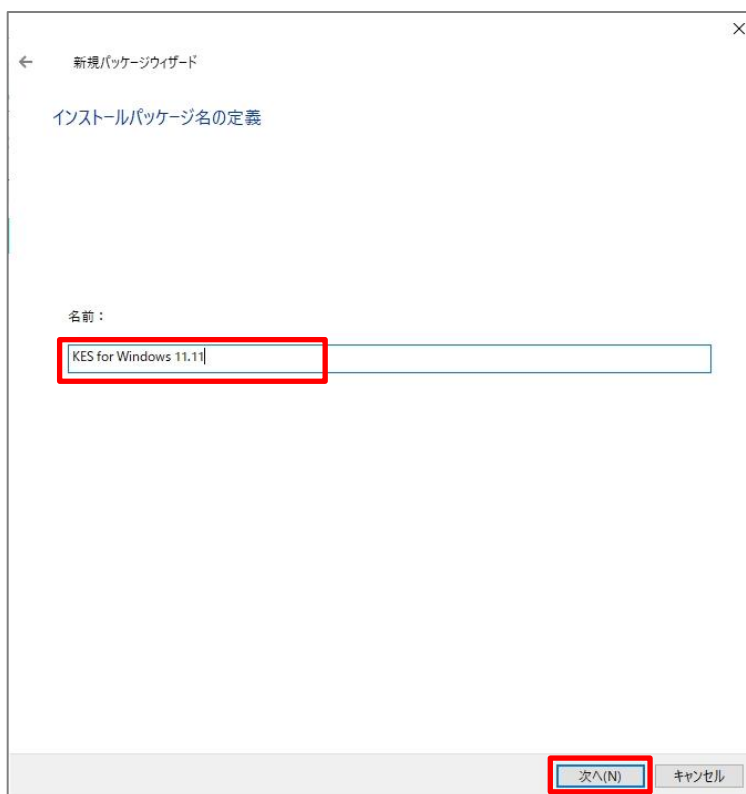
- (7) KSC 管理コンソールを開き、「詳細」-「リモートインストール」-「インストールパッケージ」を開きます。
「インストールパッケージの作成」をクリックします。



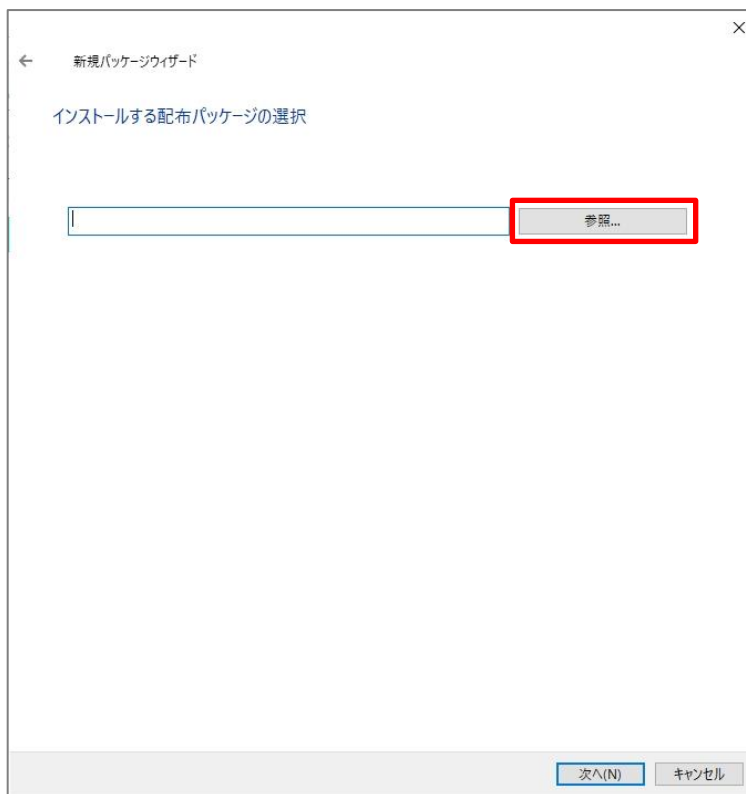
- (8) 新規パッケージウィザードが起動します。
「カスペルスキー製品のインストールパッケージを作成する」をクリックします。



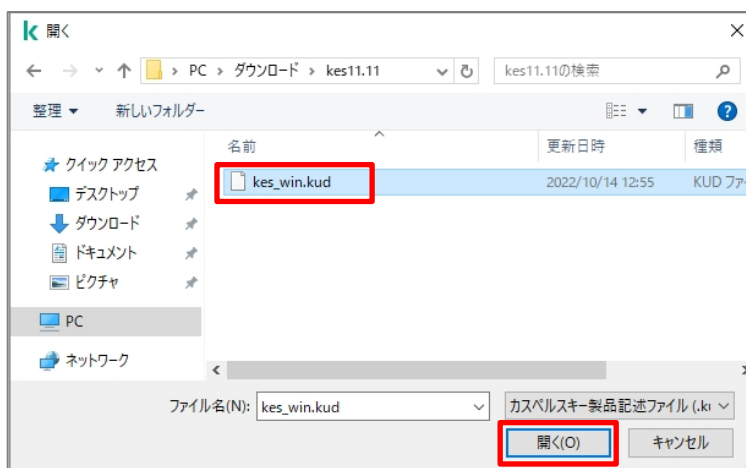
- (9) インストールパッケージの名前を入力し、
「次へ」をクリックします。
ここでは「KES for Windows 11.11」としています。



- (10) 登録するインストールパッケージを選択するため、「参照」をクリックします。



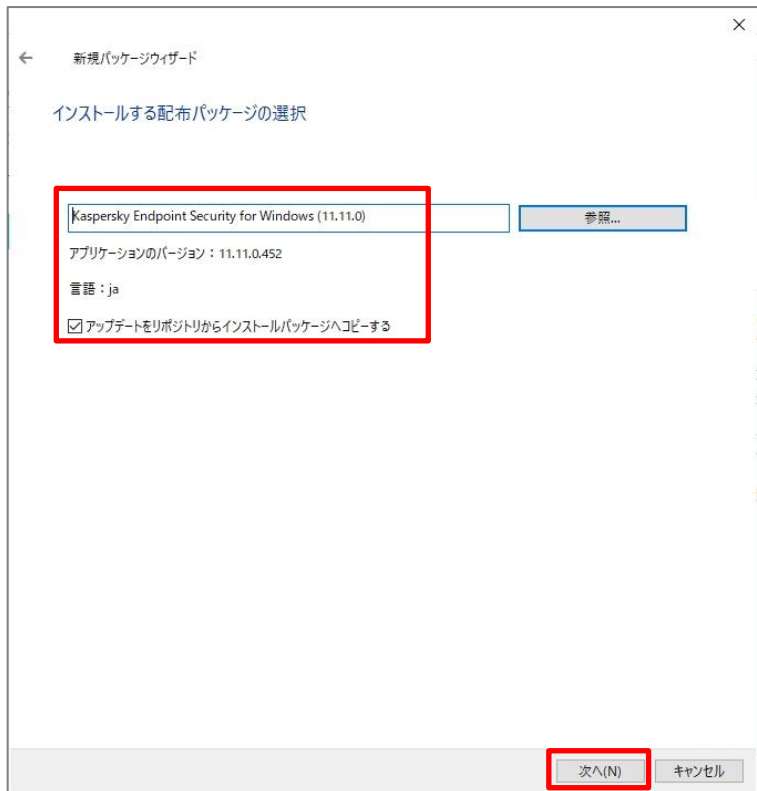
- (11) “手順(4)”で指定した解凍先のフォルダーを開きます。
フォルダー内にある「kes_win.kud」を指定し、「開く」をクリックします。



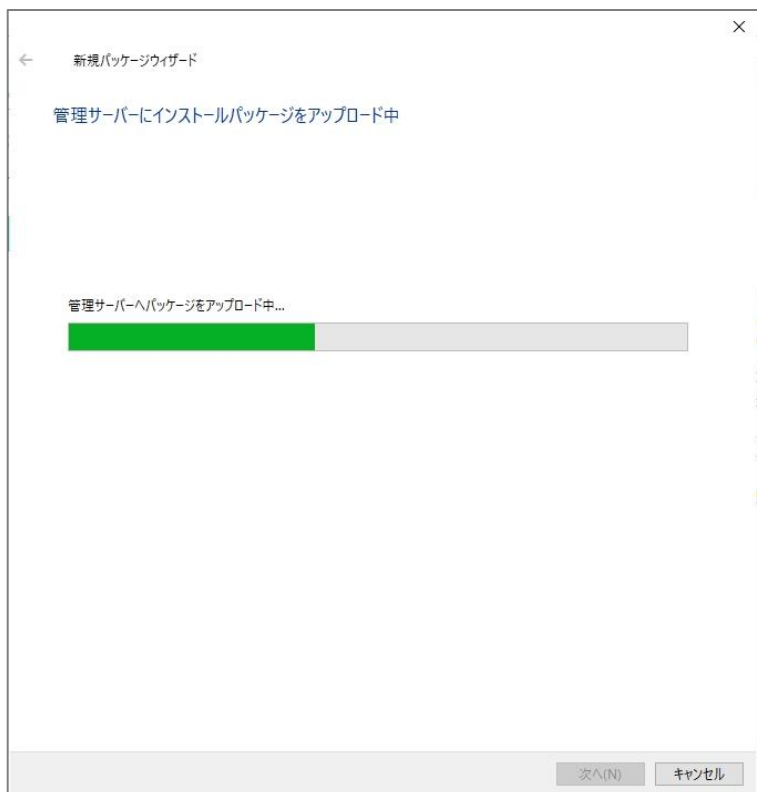
- (12) アプリケーションのバージョン、言語が表示されていることを確認し、「次へ」をクリックします。

「アップデートをリポジトリからインストールパッケージへコピーする」にチェックを入れた場合、KSC の定義データベース更新タスクが実行され、最新の情報がインストールパッケージに格納されます。

クローズド環境の場合はチェックを外してください。

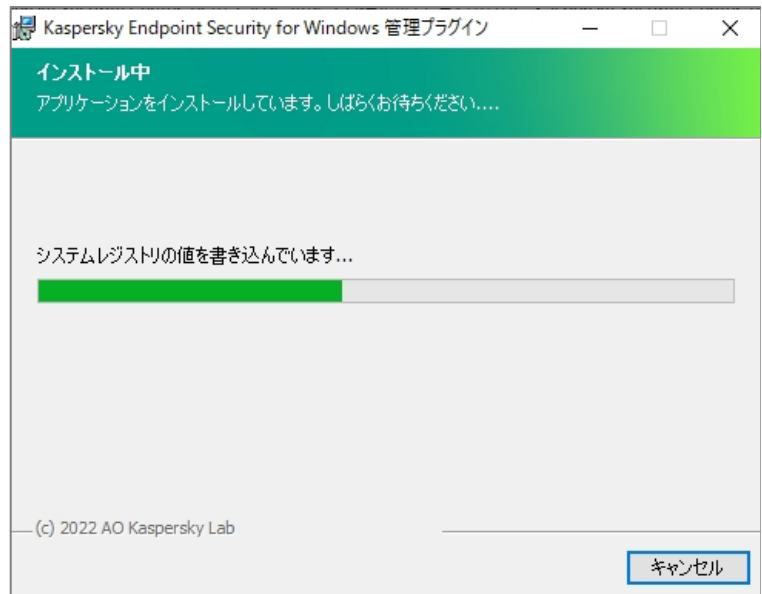


- (13) インストールパッケージの登録処理が行われます。

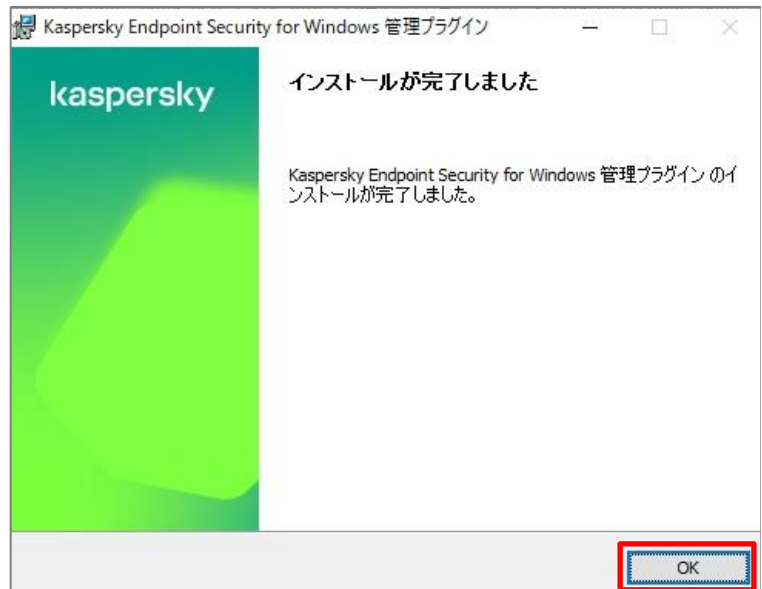


kaspersky

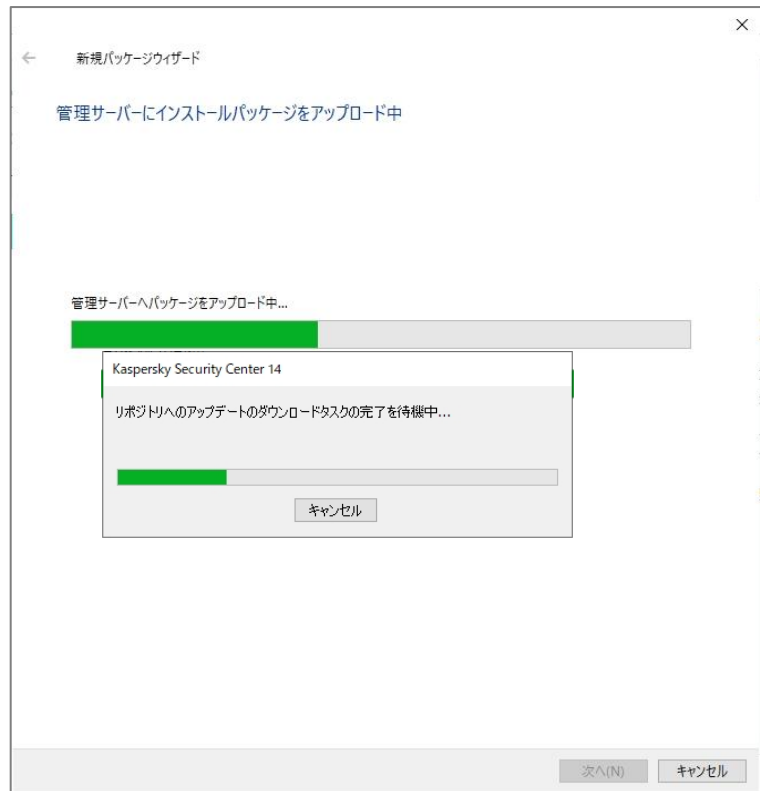
- (14) 同時にアプリケーション管理プラグインのインストールが行われます。(未インストールの場合)



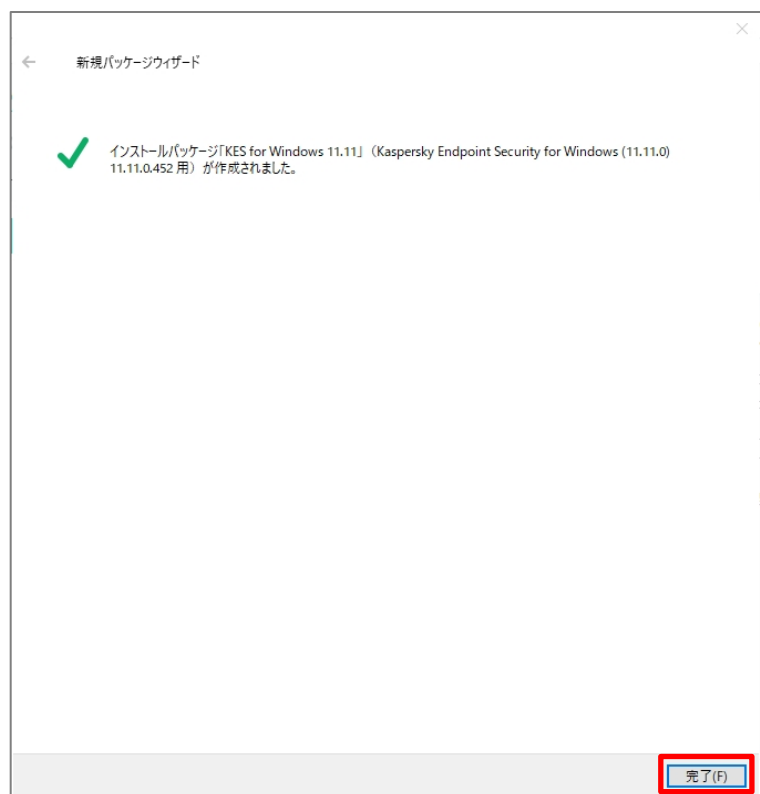
- (15) 管理プラグインのインストールが完了したことを確認し、「OK」をクリックします。



(16) 完了するまで待ちます。



(17) 正常に作成されたことを確認し、「完了」をクリックします。



(18) 一覧に、作成したインストールパッケージが登録されていることを確認します。



本章は以上です。

KSC にて KES を管理するためのポリシー、タスクは別途手動で作成する必要があります。

詳細は「ポリシータスク初期設定ガイド」をご参照ください。

<https://kasperskylabs.jp/biz/>

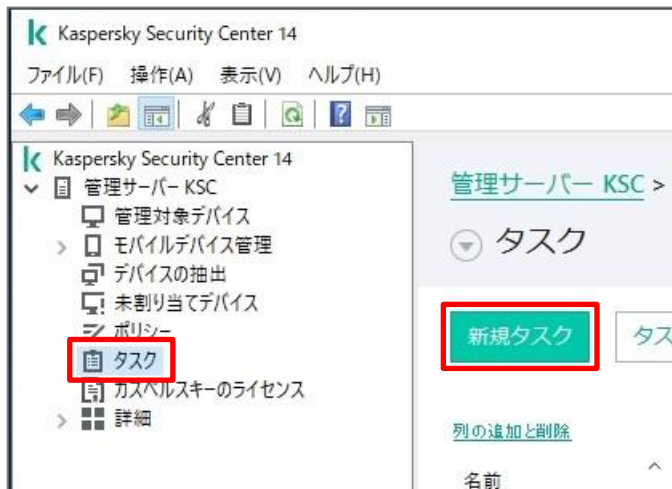
2. KSC に対し KES のインストール

KSC は管理アプリケーションであり、セキュリティ保護機能はありません。そのため、KSC サーバー自身にもセキュリティ対策を行う必要があります。

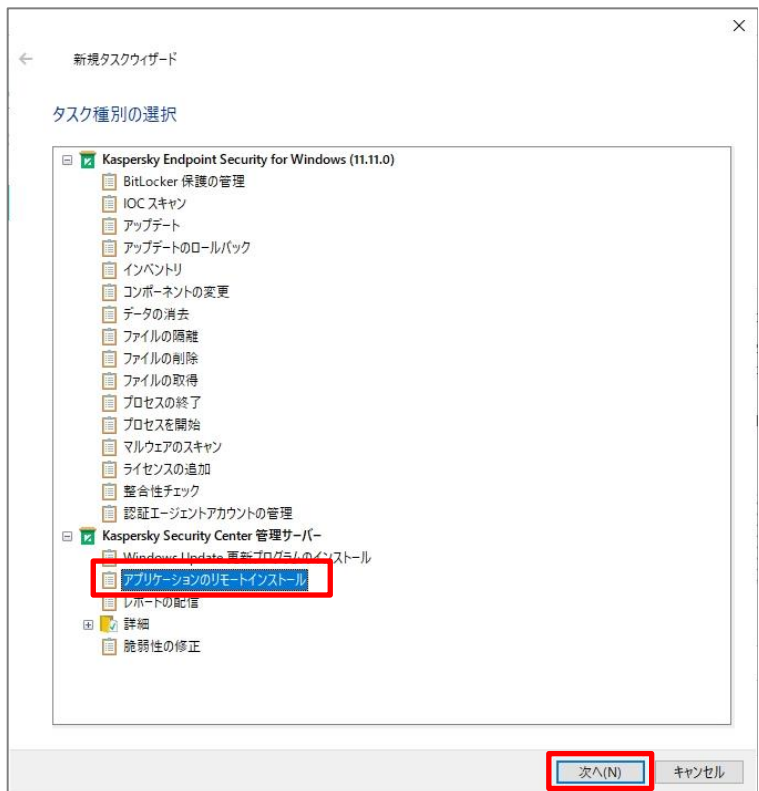
本章では、KSC 自身にセキュリティ対策として KES をインストールする手順を紹介します。

管理下のクライアントデバイスに対してセキュリティ製品をインストールする手順につきましては、別紙「**Kaspersky Endpoint Security 11 簡単リモートインストールガイド**」をご参照ください。

- (1) 左画面から「タスク」を選択し、右側画面内にある「タスクの作成」をクリックします。

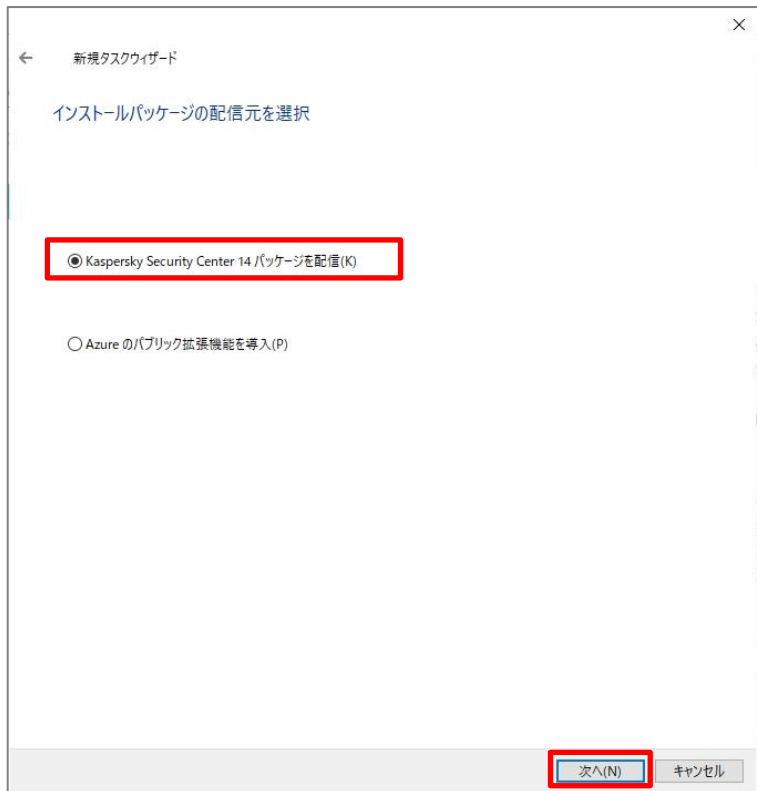


- (2) タスク種別を選択します。
「Kaspersky Security Center 管理サーバー」配下にある「アプリケーションのリモートインストール」を選択し、「次へ」をクリックします。



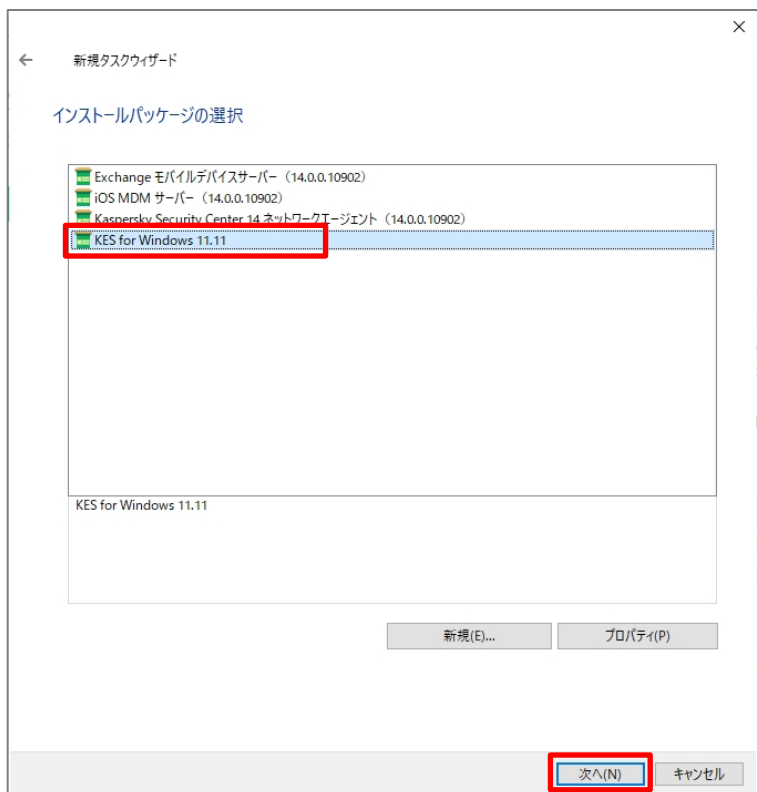
(3) インストールパッケージの配信元を設定します。

「Kaspersky Security Center14 パッケージを配信」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。

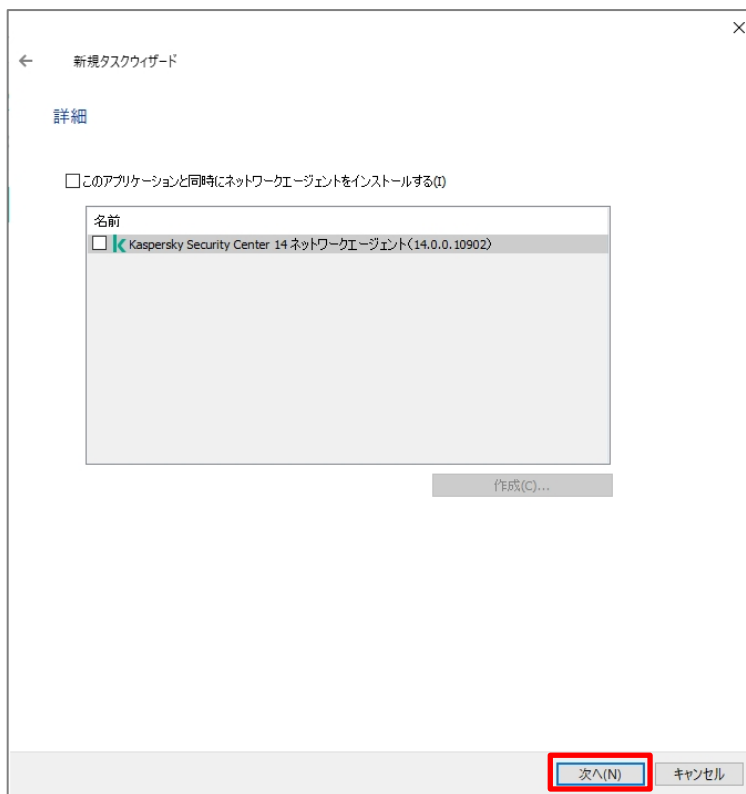


(4) KES for Windows のインストールパッケージを選択し、「次へ」をクリックします。

ここでは上述の手順で作成した KES のインストールパッケージを選択しています。



- (5) KSC にネットワークエージェント（NA）のインストールは不要のため、既定値のままチェックは入れずに「次へ」をクリックします。

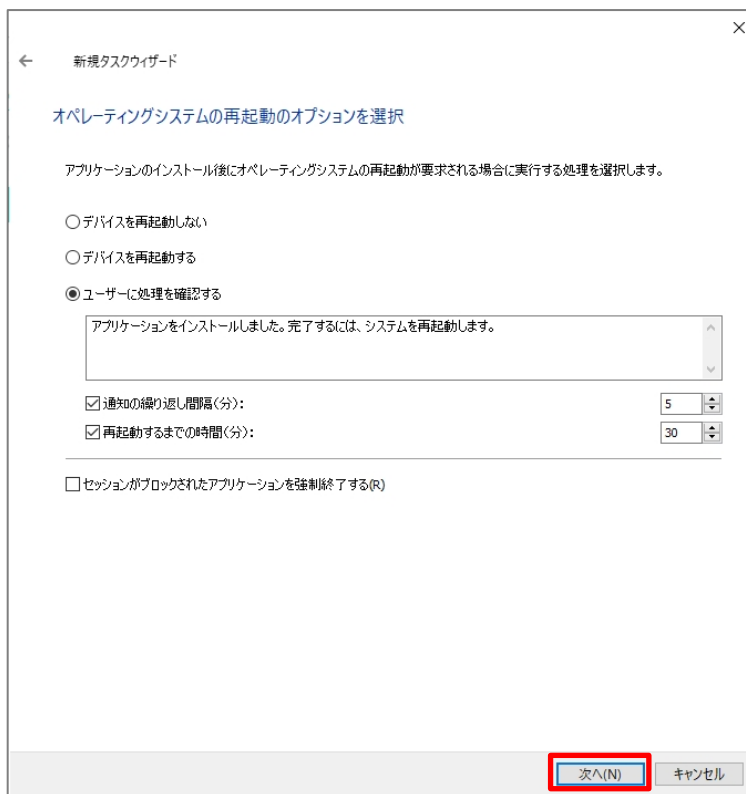


- (6) インストール方法の選択をします。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。



(7) オペレーティングシステムの再起動方法を選択します。

ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。



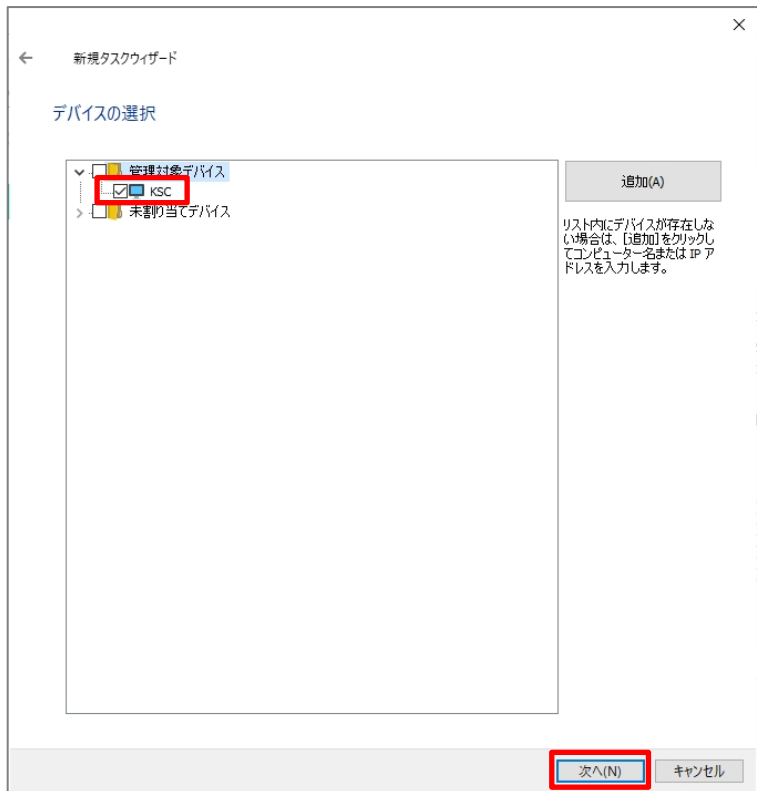
(8) タスクを割り当てるデバイスを選択します。

画面内にある「ネットワークの管理サーバーによって検出されたデバイスを選択する」を選択します。



(9) 「管理対象デバイス」を展開し、管理サーバー名にチェックを入れます。

ここでは管理サーバーのホスト名である「KSC」にチェックを入れ、「次へ」をクリックします。



(10) タスクを実行するアカウントを設定します。

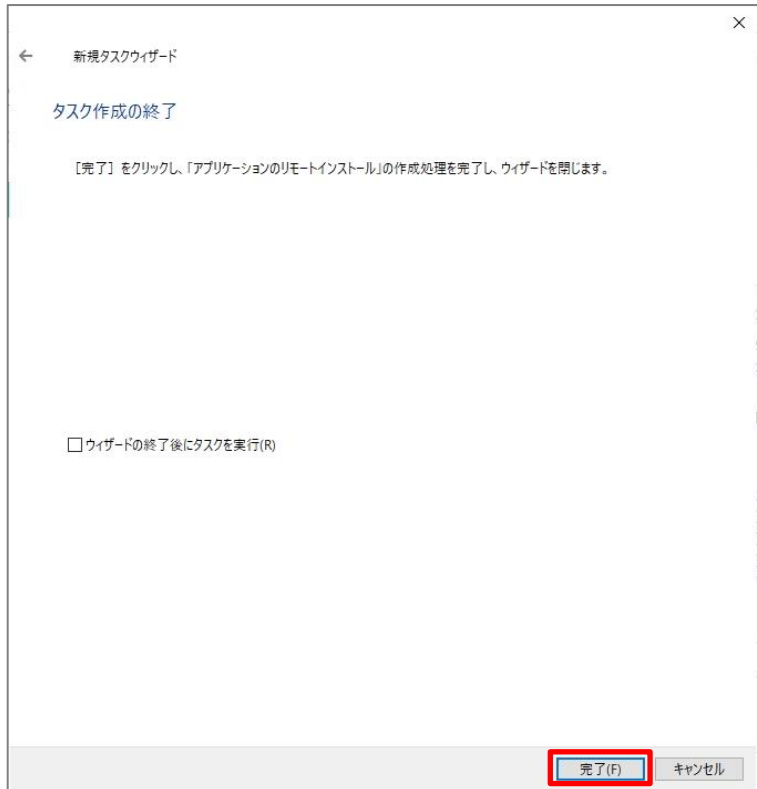
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。



- (11) タスクスケジュールを設定します。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

- (12) タスク名の設定にて任意の名前を入力します。
ここでは既定値のまま「次へ」をクリックします。

- (13) タスクの作成が正常に完了したことを確認し、「完了」をクリックします。



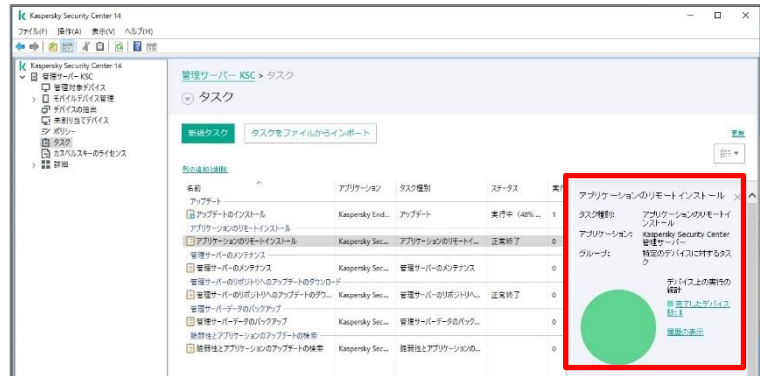
- (14) 一覧に作成したタスクが表示されていることを確認します。
タスクを右クリックしてコンテキストメニューから「開始」を選択します。



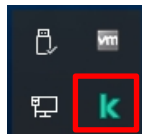
- (15) タスクが開始されます。
完了するまで待ちます。



- (16) タスクが正常に完了することを確認します。



- (17) タスクバーにて KES のアイコンが表示されていることを確認します。



- (18) アイコンをクリックすると、KES コンソールが表示されます。



- (19) 管理コンソールにて「管理対象デバイス」を選択し、「デバイス」タブを開きます。管理対象として KSC 管理サーバー自身が登録されていることを確認します。



「リアルタイム保護のステータス」が「実行中」となっている場合、カスペルスキーのセキュリティ製品が導入済みで正常に動作していることを意味します。

本章は以上です。



株式会社カスペルスキー

〒101-0021 東京都千代田区外神田 3-12-8 住友不動産秋葉原ビル 7F

<https://www.kaspersky.co.jp/> | <https://kasperskylabs.jp/biz/>

©2023 Kaspersky Labs Japan. Kaspersky Anti-Virus および Kaspersky Security は、AO Kaspersky Lab の登録商標です。
その他記載された会社名または製品名などは、各社の登録商標または商標です。なお、本文中では、TM、®マークは明記していません。
記載内容は 2023 年 1 月現在のものです。記載された内容は、改良の為に予告なく変更されることがあります。